

まちづくり 提言書

第5回時点案

令和8年2月 日

令和7年度水戸市市政モニター

目 次

まちづくり提言書について 2

【第1部】

私達が理想とするまちの姿 3

【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組 . . .

(資料)

市政モニター活動内容

市政モニター名簿

まちづくり提言書について

私たち市政モニターは、「水戸市が皆から選ばれるまちづくり」をテーマと定め、この1年間研究し、提言書としてまとめました。

この提言書は、初めにこれからも暮らしたいと思えるような、「私達が理想とするまちの姿」を描き、次に、「理想のまちを実現するための課題と取組」を挙げています。

理想とするまちの姿については、全国共通で大事な視点からの「妊活世代から孫活世代まで安心して暮らせるまち」、水戸市独自の視点からの「唯一無二の水戸」、水戸市を越える広域的な視点からの「誰もが輝く水戸」という3つの小テーマごとにまとめています。

私達が理想とするまちの姿は、次のとおりです。

妊活世代から孫活世代まで安心して暮らせるまち

- 【提言1】 活気ある教育を選択できるまち・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1, ●
- 【提言2】 負担のない出産・子育てができるまち・・・・・・・・・・・・・・・・ ●, ●
- 【提言3】 もう一人産めるまち
- 【提言4】 すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち
- 【提言5】 まちごと家族のまち～頼れる人がそばにいる子育て～
- 【提言6】 生涯活躍し続けられるまち

唯一無二の水戸

- 【提言7】 地域コミュニティが相互作用しあうコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸・・ ●, ●
- 【提言8】 どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境、動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」・・ ●, ●
- 【提言9】 若者からの魅力度NO1のまち
- 【提言10】 場所・人・お金が循環する水戸
- 【提言11】 市民一人ひとりが推すまちづくり

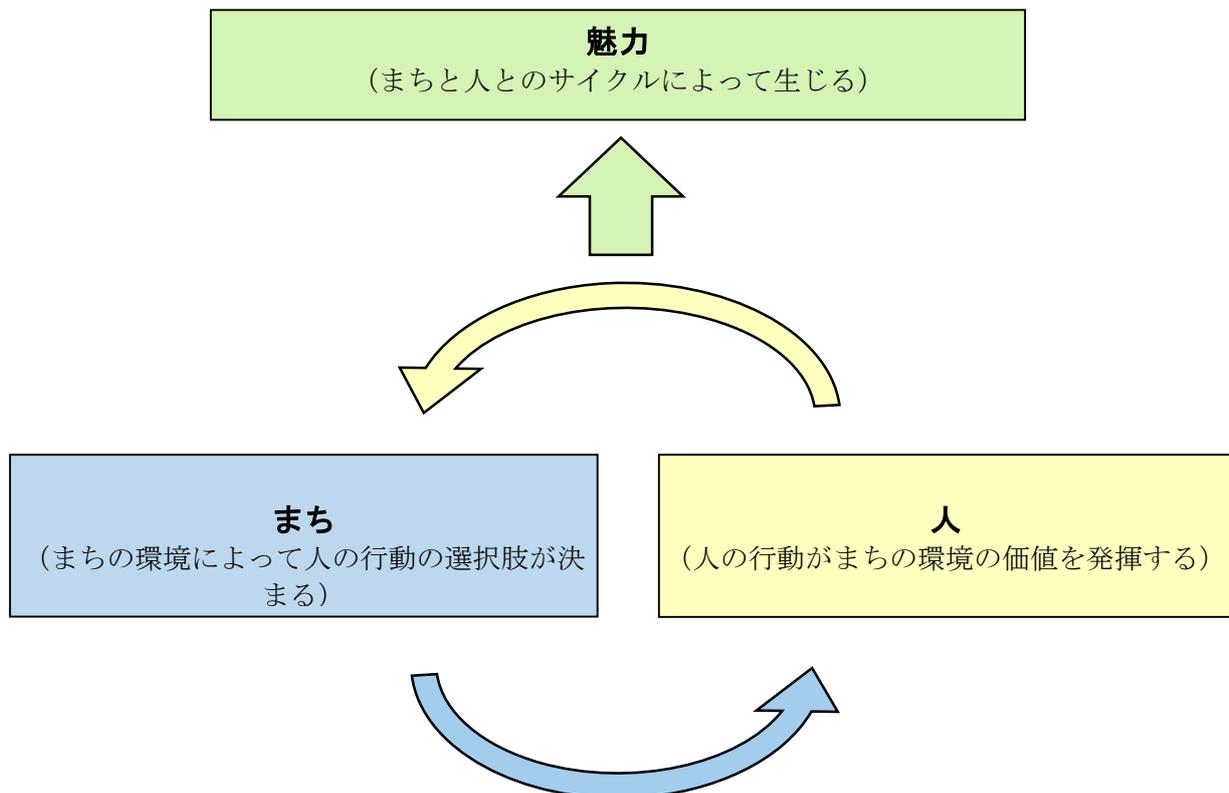
誰もが輝く水戸

- 【提言12】 多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち・・・・・・・・・・・・・・・・ ●, ●
- 【提言13】 若者が住み続けたいと思えるまち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ●, ●
- 【提言14】 誰もが主役になれるまち
- 【提言15】 若者が定着しやすく活気がある街
- 【提言16】 若者が住み続ける、帰ってくる水戸市

【第1部】 私達が理想とするまちの姿

第1部の見方

本提言書では、社会全体を「まちの環境」（自然、インフラ、地域資源などの物質的なもの）と「市民の活動」（市民の生活や、まちを形作っていく市民の行動）の循環構造と捉え、その循環によって「まちの魅力」が生じるものとしています。これに従い、理想とするまちの姿を記載しています。



【提言1】 活気ある教育を選択できるまち



・まちの環境について

私が理想とする水戸市は、こどもたちが自分の望む教育を受けることができる環境が整っているまちです。

教育面では、市内在住の子どもでなく、近隣市町村（ひたちなか市、東海村、那珂市、常磐線水郡線沿い）のこどもが通いに来る、市を代表する国公立・私立小中学校があります。この小・中学は、駅周辺を中心市街地にあります。駅から離れた私立小中学校も駅からの一般バスやスクールバスを使用することで通学できます。

これらの学校では、STEAM 授業が充実しており、生物やビオトープなどの生態系を研究するため、顕微鏡や地域に根付いた図書、PC、タブレットなどいつでも必要な時に調べられる環境があります。生態系への関心を深めることができ、探究心を高めることができます。

また、市内全ての小・中学校の生徒に対して（国立・市立・私立小学校と設置区分はあるものの分け隔てなく）学校給食調理場の利用ができます。この調理場では、水戸市近隣で生産された作物を中心に献立が決まっており、また学校の課外活動で、子ども達自身が市の農地（田、畑、ビオトープ）に携わる機会があります。これらにより農業職に関心をもち、地産地消の大切さ、農業生産

者に感謝の気持ちを育むことに繋がります。

公立の小学校では、小規模特認校（上大野小学校、柳河小学校、下大野小学校、大場小学校、国田義務教育学校）という特色のある学校も存在しており、その子の個性や興味に合わせて学校を選択できる環境があります。

・市民の活動について

このまちの大人は、子どもの興味や関心を大切にその子どもの得意なことや才能を伸ばすことを大切にしています。

例えば、自分が将来なりたい職業や興味のある放課後活動がされているそれぞれの学校の情報を入手して、そこから選択していただけるのです。この学校情報の提供の場として、市が主催となって弘道館などの広場を教育ブースにしたり、入学前相談会を開いています。この土地にゆかりのない人々も水戸市の教育事情に触れ合える大事な機会になるとともに未就学児にとっては入学前の不安払拭に繋がると考えられます。これらのイベントは無料で入場ができ、場所も水戸市にゆかりのある場所で開かれているので気軽に参加することができます。

・まちの魅力について

私が理想とする水戸市は、水戸市の小中学校に通学する全ての子ども達が恵まれた教育環境で学習し、才能を育める環境が整っているまちです。この活気ある教育環境と、自然環境豊かな水戸市で育った水戸市の子供たちは好奇心を持ちながら、様々な小中学校を選択していくことができます。進路の選択肢が多くある事で、多才な才能と文化が開花していくことで、将来、高い教育観を持った家庭が移住し、企業発展に繋がっていくと共に市の税収アップに繋がります。

市外から通学する子ども達や転入者が増える事で若い世代の移住が増え、活気あふれる街になります。公立だけでなく、他の地域との差別化を図るために私立への充実や情報提供も水戸市が介入することで、子どもの教育に関心が高い家庭が全国から転入していくことでしょう。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

【提言2】負担のない出産・子育てができるまち



・まちの環境について

私が理想とするまちは、出産から子育てまで負担がなく、2人目・3人目の出産も希望できるまちです。

このまちには、パパママともに子育てしやすい環境が充実しています。

まず、産後期から乳幼児期の期間の支援を一体化した子育て支援拠点施設があります。この施設は、1つの建物の中に、産後ケア、一時保育、病児保育を管轄するブースがあり、支援内容ごとにフロアが分かれています。ちょっと遊べる中庭やイベントに使える多目的室もあり、産後や子育てで困ったときはこの施設に来れば完結できるようになっています。

産後ケアのブースは、親族が近くに住んでいて産後も育児や家事の支援を受けられている人でも、育児に特に悩みがない人でも、希望するひとは誰でも利用できます。そこにはヨガやストレッチなどの運動ができるスペース、栄養バランスの良い出来たての食事を提供してもらえる食事スペース、日帰りだけでなく宿泊もできるようにベッドもあります。施設には助産師や調理師、栄養管理士などの専門の人が常駐しています。また、赤ちゃんの兄姉を預けられる託児スペースや赤ちゃんの父親も一緒に過ごせるスペースもあり

ます。施設は落ち着いた雰囲気で作られており、利用したい人がずっと入りやすいようになっています。

一時保育や病児保育専門のブースは、保育士や看護師が常時いて、こどものお昼寝用布団もあります。また、感染症のリスクを避けるため、病児保育ブースへ行くための出入り口や通路は別に設けられています。

この拠点施設は、市内中心部だけでなく郊外にもいくつもあり、遠出をしなくても近場で利用することができます。このほか、出産した産院で継続して産後ケアを受けたい人のために、出産から産後ケアまでを同じ産院で受けられる施設もあります。

また、こども連れで外出がしやすいように、市内の公園には、遊具に日除けが備え付けられ、広い駐車場があります。さらに少年の森公園のような大きい公園には、授乳室やおむつ交換台が整備されています。授乳室は防犯のため、夜間は施錠されています。

自宅で家事や育児を手伝ってもらいたいときには、ファミリーサポートセンターがあります。

子育て世帯の親たちが情報を収集したり、交流する場としては、みとっこアプリや、子育て支援拠点施設、市民センター、ショッピングモール

や京成百貨店の催事スペースがあります。

・市民の活動について

このまちの市民は、産後期から乳幼児期の間、必要に応じて以下のように子育て支援拠点施設を利用し過ごしています。

例えば、出産で弱った身体を回復させ、気持ちをリフレッシュしたい時には、産後ケアブースを利用し、保育士に赤ちゃんの兄姉を預けて、ヨガやストレッチをしたり、ヘッドスパやハンドケアをしてもらったりしています。また、宿泊もできるので、希望すれば赤ちゃんを助産師に預けて、お母さん、お父さんはゆっくり横になって眠ることもできます。

育児相談をしたい時には、共用の食事スペースで、赤ちゃんの月齢が近いほかのお母さんたちと一緒に食事をしながら、雑談も交えてお互いの育児の悩みを相談しています。また、助産師さんには父母ともに育児相談できたりマッサージをしてもらえる他、お母さんは母乳ケアもしてもらえます。

親自身の通院でこどもを預けたいときや、こどもが風邪でもどうしても仕事を休めない時には、一時保育や病児保育ブースを利用しています。これは、保育園のサービスの一部ではなく、こどもを預ける専門の場所なので、こどもを預かる枠が常に確保されており、利用したいときに申し込むことができます。

また、この施設は、健常児だけでなく医療ケア児等の支援が必要なこどもとその家族も利用しています。

こどもと公園へ出かけるときも、遊具に日除けがついているので、夏の暑い日でも公園で遊ばせることができます。駐車場も広く、授乳室やおむつ交換台もあるので、赤ちゃんを連れて出かけても困ることがありません。

移住してきた子育て世帯や核家族世帯など近くに頼れる親族がいない人は、家事や育児を手伝ってほしい時にファミリーサポートを利用しています。自宅から近い範囲内にサポーターがたくさんいるので、サポーターとの相性を選ぶことが

でき、相性の良いサポーターに継続して頼ることができます。

移住してきた子育て世帯や核家族の世帯は、市民センターの開放日や、子育て支援拠点施設やショッピングモールの催事スペース等で行われる、自分と同じ地区に住む子育て世帯との交流会に集まり、市内でこどもと遊びに行ける場所やイベントの情報、子育ての悩みなどの情報を共有しています。転勤などで水戸に居住することになった子育て世帯は、こどもを預ける保育園や幼稚園をどこにしたらいいか選択に困ることがありますが、ここに参加することでおすすめの園の情報や友達が通っている園などの情報を集めています。

妊娠から就学前までの子育てに関する各種支援やサービスを知りたいときには、みとっこアプリですぐ調べることができ、困ったときにどこの窓口へ相談すればいいか悩まずに済んでいます。

・まちの魅力について

このまちは、移住者や特に育児や家事の支援が必要のない家庭も含め、どんな環境の家庭であっても、産後から乳幼児期の子育て期間を安心して過ごすことができるまちです。

産後の心身が不安な時期でも、助産師に育児相談にのってもらったり、自分と同じ状況のほかのママさんとおしゃべりすることで、子育ての悩みを共有し不安な気持ちを減らすことができますので、子育てに対して前向きな気持ちを持つことができます。また、ケアを受けることで身体的にも癒やされるので、活動的な気持ちを持つことができ、遠出のお出かけにも行こうという気持ちになれます。

さらに、親が気持ちも穏やかになることで、赤ちゃんの兄姉にも余裕を持って接することができます。

一時保育や病児保育が充実しているので、急な予定が入ったときにもすぐこどもを預けることができ、こどもの看護のために仕事を休まずに済んでいます。

公園はこどもと来ても困らないように設備が整っているため、こども連れでもストレスなく遊

びに出かけられます。

ファミリーサポートのサポーターが自宅周辺にたくさんいることで、サポーターと密にやりとりをすることができ、「少し手伝って欲しい」を気軽に叶えることができます。

移住してきた子育て世帯や核家族世帯も、自分と似たような家庭環境や家族構成で子育てしている世帯の人と情報共有しながら地域と自然に繋がれるので、子育てに心細さを感じることはありません。みとっこアプリも妊娠から就学前までの情報が一本化されて集約されているので、必要な情報や支援を探すときに迷うことはありません。

産後期から乳幼児期まで子育て世帯への継続した支援があることによって、「産後も気持ちが楽だから、もう1人産みたい」と思えるようになります。「このまちなら産後も無理をしないで安心して育児できる」、「水戸で子育てして良かった」と思えるので、皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

【提言3】もう一人産めるまち



・まちの環境について

このまちは、出産時の不安が少なく、職場、園（保育園、幼稚園）、子育てを支援する環境といった複数の手を借りながらでこどもを育てられるまちである。

市内には高齢出産のトラブルにも対応できる総合病院や無痛分娩も可能な産婦人科が多くある。

幼児教育機関としては、広い園庭がある大きな園、施設も小さく少人数制で先生の目が届きやすい小規模な園、畑があったり生き物を飼育しているなど自然と触れあうことを重視している園、幼稚園から大学までエスカレーター式の園等があり、これらの園は延長保育や通園バスのサービスを提供している。

加えて、保育園や幼稚園のほか、認定保育園や無認可保育園も市内にたくさんあり、働いていない子育て中の家庭でも預けることができるほか、ファミリーサポートセンターや託児ボランティアなどのサポート体制もある。

こどもと一緒に遊べる場所としては、わんぱく・みとや植物公園、図書館といった低料金や無料で利用できる公共施設があるほか、大規模ショッピングモールには見守りスタッフが常駐している無料の屋内型遊具施設や、無料の遊具エリア

がある。

登下校中のこどもを見守る環境としては、スクールガードの制度がある。

経済環境としては、市内の中心部や郊外に、スーパーやお惣菜屋さん、服屋などの小売店や飲食店やクリニックなどの、夜勤ではない日中の勤務が中心で働ける職場が多数あり、赤ちゃんやこどもの服、幼児食を買えるお店やスーパーも市内各所にある。

・市民の活動について

このまちには大きい総合病院や、無痛分娩に対応している産婦人科がたくさんあることで、無痛分娩を選択できたり、高齢出産や持病などのハイリスク妊婦に対応できる総合病院を希望できるなど、どの病院でどんな出産をしたいかといった希望に従って産院を選ぶことができる。

市内の保育園や幼稚園は教育方針もさまざまで、親のライフスタイルや教育方針、こどもの性格に合った施設を選ぶことができる。

例えば、大人数で体を動かしわいわい遊ばせたい場合には広い園庭がある大規模な園に、人見知りや集団行動が苦手なので少人数でその子に合わせた活動ややりたい活動をじっくりやらせて

ほしい場合には小規模な園に、自然のなかでのびのび活動させたい場合には生き物の飼育や畑でサツマイモを育てて収穫するといった自然との触れあいに力を入れている園に、質の高い教育や早期からの専門教育を受けさせたい場合には一貫教育のもとエスカレーター式に進学できる園を選んでいる。これらの園では通園バスが提供されているため、園までの距離やマイカーの有無にかかわらず、こどもが通いたい、あるいは親が通わせたい園を選ぶことができる。

また、親が働いていて通常保育のお迎えの時間に間に合わないときは延長保育を利用したり、普段はマイカーで送迎している家庭が、仕事が休みの日には自宅まで通園バスにきてもらうなど、園が提供するサービスを有効活用している。

親が働いていない子育て中の家庭は、認定保育園や無認可保育園に預けて日常の家事や通院といった用事をこなしたり、休んだり、趣味をしたり一人になることでリフレッシュすることができる。また、子供も自宅以外の環境に行くことで対人関係を学べ、自宅以外の世界があることを学ぶことができる。

また、産休・育休中に親族にも頼れず保育園にこどもを預けられないときには、ファミリーサポートを利用できる。ファミリーサポートでこどもを預けている間に、親は体を休めたり洗濯や家の掃除などの家事を済ませることができる。

さらに、親の用事でこどもと一緒に出かけるときには、大規模ショッピングモールの無料の屋内遊具施設にいる見守りスタッフや、図書館にいる託児ボランティアにこどもを預けて、ゆっくり買い物をしたり本を選んだりしている。ショッピングモール内の無料屋内遊具エリアでは、未就学程度の子供が多少走れるほどのスペースがあり、小さな滑り台やクッションでできた大きな積み木があり遊ぶことができる。周囲を囲むように柔らかいベンチが設置されており、下駄箱式で入場するため子供が一人で出ていかないよう工夫されている。体を動かしたい子供の気分転換をしたり、子に遊んでいてもらうことで親が休憩したいときにそこで遊ばせている。

こどもと遊び目的で出かけるときには、わんぱく・みと、植物公園、図書館に出かけている。

わんぱく・みとには乳幼児向けの遊具がそろっているため、年齢が近いこども同士で遊ばせたいときに利用している。小さいこどもだけが集まるので、年齢が大きいこどもの事故やけがの心配がなく、親も安心して遊ばせることができている。

植物公園では、こどもと公園内の珍しい植物を見たり、季節ごとの景色を楽しんでいる。広い敷地や芝生の広場では歩いたり走ったり体をうごかして、疲れたらゆっくり休憩したり、お弁当の持ち込みをしてピクニックをしている。

図書館では親子で絵本の読み聞かせをしたり、気に入った絵本を借りて自宅で読んだり、読みたい本があれば市内のほかの図書館から取り寄せて最寄りの図書館で受け取ったりしている。

中でも、図書館では、託児サービスを兼ねて、こどもが好きな高齢者サークルによる絵本の読み聞かせや紙芝居などのお話会、保育士による折り紙やコマ作りなどのものづくり教室が開催されているので、これらのイベントにこどもが参加している間、親は自分の本を選んだり、雑誌を読んだりして過ごしている。未就学児で決まった預け先がまだないこどもを持つ母親はこの間短時間でも一人になる時間ができるので、ほかのこどもや保護者、保育士と話しをすることができている。

小学生の登下校の時間には、近所に住む高齢者がボランティアでスクールガードをしてくれて、交通量の多い道沿いや横断歩道付近で親の代わりに見守りをしてくれている。

このまちの市民は子育て世帯が働くことに理解があるので、このまちに住む子育て中の人は自分の働き方で働いている。

例えば、小さいこどもや複数のこどもを養育している人、持病・体力的な問題がある人は、日中の短時間勤務や少ない出勤数にしたり、こどもを幼稚園や保育園に送ってから迎えに行くまでの決まった時間に働いている。また、夫が仕事を休めなくても妻が休みを取りやすい職場で働いて

いるので、こどもが病気の時や幼稚園や保育園の行事があるときに休むことができている。

スーパーやこども用品を扱っているお店も市内全体にあるので、このまちの人々は徒歩やバスで買い物に出かけ、必要な物をすぐ手に入れることができている。

・まちの魅力について

このまちは赤ちゃんから高齢者まで幅広い年齢層の人が多く住んでおり、お店や職場へのアクセスも良く、利便性が良い。

高齢出産に臨む人も妊娠期のトラブルに対応できる病院があるので、水戸で安心して産み、こどもを育てている。自然分娩か無痛分娩かだけでなく、医師との相性、母体や新生児になにかあった際対応できる総合病院での出産など複数の条件を選択肢に含めて検討でき、自分が望む出産、不安のない出産をすることができている。

産後働きたいという場合には、子育てしながらでも働きやすい職場が多くあるのと同時に、親の教育方針やライフスタイル、こどもの性格に合う保育園や幼稚園の選択肢がたくさんあるので、こどもに合っていてかつ親も無理なく働けるといいう両方を叶えることができ、どちらかを諦めなければいけないということがない。

親はこどもをどう育てていきたいか自分が納得した園に入れられることができ、こどもも自分に合った環境の保育園や幼稚園で過ごせるので、親も子も将来の目標に向かって進んでいくことができる。

こどもを預けられる場所としては、ファミリーサポートのほか図書館やショッピングモールの中にも託児サービスがあるので、こどもを預けている間に親は息抜きや気分転換ができ、一对一の育児中も孤独感、負担感を軽減できる。

このようにこのまちは、気持ちに余裕を持って出産、子育てができ、余裕があることで、もう1人産みたいという希望を持てるまちであるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

【提言4】すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち



・まちの環境について

私にとっての理想のまちは、障害や難病の有無に関わらず、未就学児や小学生の子どもやその養育者が安心して過ごせるような居場所が身近に存在し、無料もしくは安価で利用できる。

例えば、屋内で遊べる場所としては、わんぱく・みとやはみんぐぱく・みと、いきいき交流センターあかしあなどの子育て支援センター、市内小中学校の体育館、リリーアリーナ MITO がある。これらの施設は空調もあり、中には公園のような広いスペースを持つ場所もある。土日祝日のほか、夏休み、冬休みといった長期休暇中でも個人にも開放されている。屋外で遊べる場所としては、森林公園や少年の森、四季の原などがある。

各地区に存在する市民センターには子どもスペースがある。子どもが走り回れる広さになっており、玩具や遊具が常時置かれ自由に使えるようになっている。また、玩具や遊具の施設内貸出も行われている。

さらに、個人で予約して利用できる個室スペースもある。ゆっくり座って話せる和室や、ちょっとした調理や食事を楽しめるキッチンやダイニングテーブル等がある部屋のほか、机等の備品を何も置いていない土足厳禁のカーペット敷きの部屋もある。そのほか、市民センターには子育て

広場事業として託児サービスがあり、子どもを預かるための部屋がある。

教育や福祉施設としては、幼稚園・保育園・小中学校（義務教育学校含む）・高等学校・大学などが公立・私立問わず市内に多数存在している。さらに、茨城県立の水戸特別支援学校・内原特別支援学校・水戸飯富特別支援学校・盲学校・水戸聾学校があるほか、公立の小中学校の各校にも特別支援学級が設置され、在籍児童・生徒数は全国的にも増加傾向である。

医療施設としては、茨城県立子ども病院・愛正会記念茨城福祉医療センターなど小児の難病や障害を対象とした大病院が近隣自治体と比べ、水戸市内には多く存在している。

・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、土日祝日や長期休暇中には子育て支援センターや体育館へ遊びに出かけている。広々とした室内で気候や他人の目を気にすることなく、くるくる走り回ったり、のびのびと体を動かしたり、ボール遊びをしている。広々としつつも屋外と違って壁があるので、子どもが遠くに行きすぎてしまう心配もない。

一方で、気候が良いときは、森林公園や少年の森、四季の原などの広々とした屋外空間へ遊びに

出かけている。

気温が高くなってきたときや急な雨などで外で遊べなくなってしまったときには、市民センターのこどもスペースに立ち寄り遊んでいる。常時遊具が置いてあるので、ふらっと寄っても遊ぶことができる。さらに、おもちゃの施設内貸出しもあるので、こどもが家のおもちゃに遊び飽きてしまったときや、こどもの年齢や発達によっておもちゃの買い換えを検討するときなど、必要な際に寄って貸出しを利用し、おもちゃの試し遊びをしている。

市民センターの個室スペースは、利用する人が自分のニーズに合わせて部屋を選んでいる。障害や病気の程度によって、大勢の人がいるところが苦手だったり、友だちの家に遊びに行ったりするのが難しいときには、個室スペースに友人家族と子供を交えて集まり、ゆっくり座って過ごしたりしている。キッチン設備のある部屋では、友人同士で料理を作って食事を楽しんだりしている。こどもが部屋の備品を触って壊したりけがしたりするのが心配なときは、自宅からおもちゃや食べ物を持ちよって、備品が何も置いていない部屋を利用している。養育者はこどもを気にして付いて回る必要が無いので、安心して語らいができ、こどもは養育者に注意されずに済むので自由に遊んで過ごすことができる。

また、子育て支援センターには、こどもの年齢ごとに利用日が区切られている日も設けられている。その日はこどもの年齢に近い養育者が集まり、同じ境遇の養育者同士が出会ったり、共通の子育ての話などをして交流している。同じ学区内の子育て世帯が集まり交流するイベントも多く行われている。

養育者が自分の病院に行くときや、家具屋・駅ビルでの買い物などこどもが興味のない大人の用事で出かけるときは、各市民センターにある託児サービスにこどもを預けている。この託児サービスは安価で預けることができ、市 LINE から予約をすることができる。事前予約枠と当日受付枠があるので、当日急に利用したいときにも申し込むことができる。託児ボランティアはその地域の

人が担当しているので、自分のこどもを知らない人に預けることへの不安に悩まずに済んでいる。

・まちの魅力について

このまちは、子育て世帯が気軽に立ち寄れる居場所があるまちである。

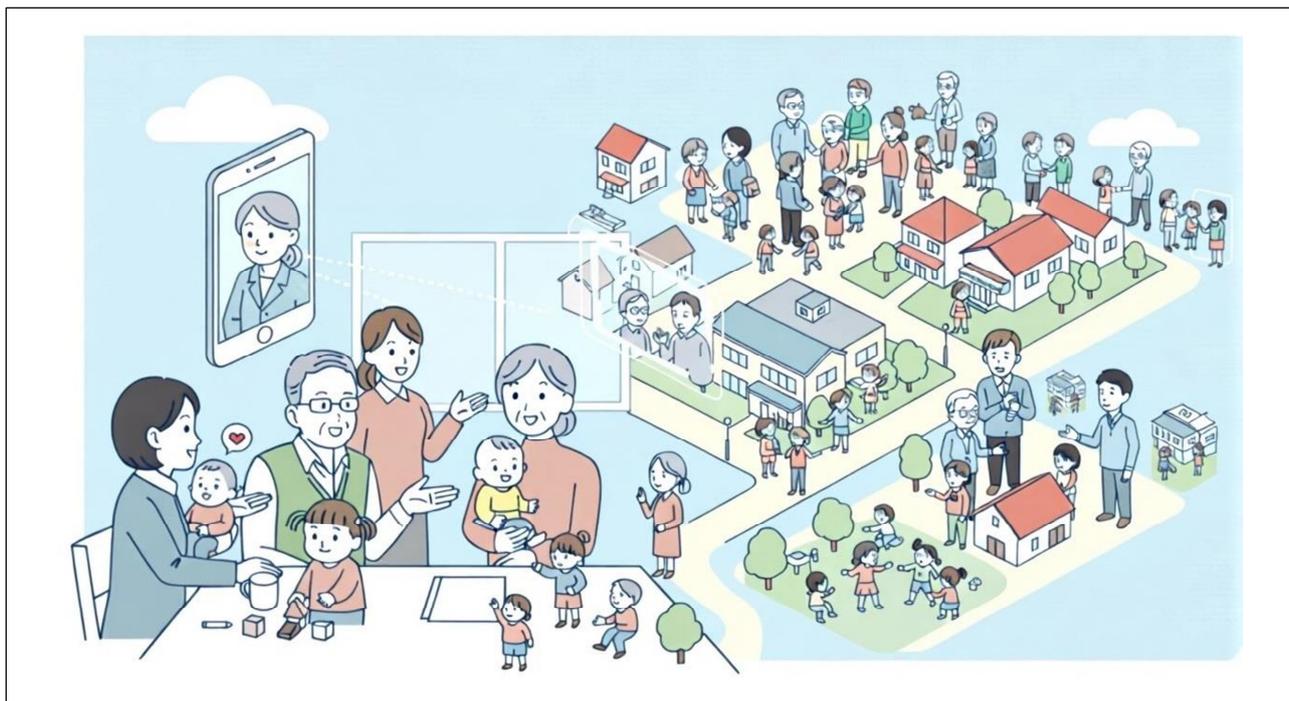
土日祝日や長期休暇など、こどもの保育園や小学校が休みの時に、子育て支援センターや体育館、市民センターが開放され個人単位でも利用できることで、こどもの遊び場に悩むことがなく養育者は安心してこどもを遊ばせることができる。また、市民センターには個室スペースもあるので、周りの目を気にせず過ごすこともできる。

また、自分のこどもと歳が近いこどもを持つ養育者と出会える場があることで、子育てによる閉塞感や孤独感を感じることなく安心して過ごすことができる。

各市民センターに託児サービスがあるので、養育者も病院受診を我慢せずに済み、こどもにとっては興味が無いような家具屋や駅ビルなどのお店にも買い物に行くことができている。託児サービスは LINE から気軽に利用申込ができるうえ、託児ボランティアが地域の人という親近感もあるので、この人なら預けても大丈夫だと思えて、安心して利用することができる。

このように、子育て世帯がほっとできるまちなので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組を P O に記載します。



・まちの環境について

このまちは、転入者など地域のコミュニティとの関係が薄い子育て世帯や、出産から育児期に近くに親族がいない人でも、安心して暮らすことができるまちである。

このまちには、困ったときに気軽に頼れる人と人のつながりを支える仕組みがある。

その一つとして、市のLINEのほか、図書館、わんぱーく・みとやはみんぐぱーく・みと、保育園などの子育て施設といった地域拠点を通じて相談できる子育て・地域つなぎコンシェルジュがいる。

コンシェルジュは、子どもと関わりたい高齢者、水戸に長く住み、地域のことに詳しい人、子育て支援や地域サービスに精通した人などが担い、オンラインと対面の両方で市民とつながることができる。

オンライン相談としては、LINEからコンシェルジュに相談したい日時の手配をとることができ、予約した日時に、コンシェルジュとビデオ通話で相談ができる。

対面相談としては、LINEで事前に予約をして、わんぱーく・みとなどの地域拠点でコンシェルジュと直接対面して相談することができる。

また、子育て支援センターではコンシェルジュ

と若い世代の接点として、プレママ教室や赤ちゃんとのふれあい体験が行われている。

・市民の活動について

このまちの子育て世帯は、日常のちょっとした困りごとや不安を、上記の手段によって気軽にコンシェルジュへ相談している。特に、こどもが小さい時期など子連れで出かけるのはハードルが高いときにはオンラインでの相談を利用している。

相談内容に応じて、適切な支援制度やサービスにつながるができるほか、「話を聞いてもらうだけ」でも安心感や信頼関係が生まれ、本音を話しやすい雰囲気が育まれている。

また、コンシェルジュは相談を受けるだけでなく、お節介な関わりを通じて相談者と子育て支援サービスをつなぐ役割も果たしている。例えば、把握している相談内容を踏まえ、困っている人たちの手助けになるように「こういう相談をしてきた人がいるので、他の施設にも共有しておくね」や「こういう相談が出ていたからこういう案内を出すといいよ」といった具合に、必要に応じて子育て世帯と地域拠点の職員をつないでいる。

こうしたコンシェルジュのお節介によって必要な情報にきづくことができ、このまちの子育て世

帯は悩みを抱え込まずに済んでいる。若い世代も、プレママ教室や赤ちゃんとのふれあい体験などを通じて、結婚や出産の前段階からコンシェルジュと接点を持つことができる。出産期、育児期...とライフステージが変わっても顔なじみの関係が続いているので、安心して頼ることができている。

・まちの魅力について

転入などにより地域との関係が薄い子育て世帯や、近くに親族がいない家庭でも、このまちには「相談すれば大丈夫」と思える人がいる。

コンシェルジュと市民がつながることで、安心感や信頼感が生まれ、まち全体が家族のような関係性となり、あたたかい雰囲気が生まれている。特に、直接対面しなくても声色が伝わったり「私もあなたと同じだよ」といったことが伝わるような、人と人の心理的なつながりがある、現代の「顔の見えるつながり」が特徴である。

また、お節介を受けた人が「次は自分も誰かの力になりたい」と思うようになり、助け合いの気持ち循環している。

このように、まち全体で支え合える環境があることが、水戸市が皆から選ばれる理由となっている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

【提言6】生涯活躍し続けられるまち



・まちの環境について

私の理想とする水戸市は「夢を実現する環境が整っているまち」です。子育てがひと段落した世代や、仕事をリタイヤして時間ができた世代が、「夢をかなえたい」と思ったときに年齢や環境のせいであきらめなくていいまちです。

このまちには、さまざまな用途に応じて誰でも使える便利な施設が市内に複数（学区ごとに1か所以上）あります。

この施設には、次のような設備が備わっている多目的の大きなホールがあります。設備の例としては、飲食店をできるように水道やガスなどのキッチン設備や寸胴などの特殊な調理器具、小さな子どもが走り回ったり大人がダンスができるような防音設備や音響設備、フローリングの床、鏡張りの壁、将棋・オセロなどのボードゲーム大会や絵画の個展を開催できるような机やイス、作品が見やすいライトなどです。また、このホールは、ローラースケートやミニ四駆などの競技を行えるように床や壁に傷がついても大丈夫な造りになっています。

これらは、現在使われていない空き家や倉庫をリノベーションし、誰でも使えるように管理されています。利用したい人は登録と予約さえすれば1日単位で自由に利用することができます。

また、この施設には常設施設として「小学生の緊急下校先施設」が併設されています。この施設は、こどもが、親自身の通院など緊急の理由で帰宅や迎えが間に合わないなど放課後一時的に居場所が必要になったときに親の帰りを待つことができる施設です。

・市民の活動について

このまちでは、子育てがひと段落した世代や仕事をリタイヤした世代が、やってみたいことに挑戦できるまちです。

例えば、飲食店やダンススタジオなどを開店したいがいきなり実店舗を持つのは不安な人は、1週間や数日間の期間で間借りをして、この施設でお試し開店をしています。キッチン設備や特殊な調理器具、防音設備や音響設備など費用面で負担の大きいものは備え付けてあるので、食材やお皿など用意しやすいものを持ち込んですぐ開店し、自分の夢を実現できるかどうか挑戦しています。

また、水戸は都内から2時間あれば来ることができるので、東京で平日働いている人が土日だけ水戸に来てお試しでお店を開いていることもあります。それがきっかけで水戸でやってみたい仕事を見つけて移住してくる人もいます。

保育士の資格を持っている人は、市内の学校で

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

運動会などがあるときに保育・学童の施設に集まり、保護者が運動会等に参加している間、赤ちゃんや幼児を預かっています。

ボードゲームや絵画、ハンドメイドが趣味の人は、それぞれ好きな人たちが集まってイベントや個展を開催しています。

ローラースケートやミニ四駆が好きな人は、年齢に関係なく大人数で好きな物同士で集まり、床の傷などを気にせずに思い切り競技をしています。

また、働きたいけど、こどもが学校に行っている間だけなど時間が限られている人や、高齢のため働ける場所がない人も、お試し開店している人のお店や競技大会のスタッフ、「緊急下校先施設」でこどもの見守りとして、隙間時間や自分の好きなタイミングにアルバイトやパートで働いています。「緊急下校先施設」には、学童に入っておらず親がどうしても下校時間に間に合わないけど親の帰りを待つ場所がないということこどもがやってくるので、一時的にこどもを預かり見守るスタッフとして働いています。

・まちの魅力について

このまちは、自分の夢を実現するために興味・関心のあることに打ち込むことができ、それによって他の誰でもない「自分という個人」を表現して、社会とのつながりを強く感じることができるまちです。特にこれは「仕事」によって形になります。

一方、仕事をするにあたっては、結婚や出産、子育て、年齢等によって満身に働くことができなくなる場合があります。しかし、このまちではそうした問題に対応し、自分に合った働き方で働ける様々な工夫がされています。

そのため、水戸なら自分のやりたいことができ、雇用主としても雇用される側としても一生涯生き生きと活躍し続けることができます。

つまり、年齢や環境に関係なく、自らの夢を追い求めて社会と繋がれる、本当の自由があるまちなので、皆から選ばれています。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

私が理想とするまちは、それぞれの地域コミュニティが活性化し他の地域コミュニティとも相互影響し合うコンパクトな生活ができるまちである。水戸市の地域コミュニティは、34の地区会、約1300の町内会・自治会、約6400の班及び加入世帯で構成され、コミュニティに属する市民も赤ちゃんから高齢者まで多世代に渡っている。

この地域コミュニティの活動を支える場所として主に市民センターや市民会館があり、市民センターは地区会の数に対応して34ヶ所に設置されている。市民センターは地域コミュニティ活動に参加したい人たちが誰でも気軽に利用できると共に、水戸に移住して新たに活動したい人や定年退職後の趣味活動、子育て世代の皆さんが子どもを預けながら仕事をしたり仲間づくりをするなど、それぞれの世帯の人のチャレンジを応援するための機能を備えている。

市民センターの主な機能としては、窓口業務や災害時の防災拠点のほか、生涯学習講座やサークル団体の活動拠点、地域コミュニティの活動を支援する場になっている。各市民センターは、その機能を果たせるように、次のような設備を有している。例えば、大きいホールの部屋があり、普段

は生涯学習講座やサークル団体の活動等に使用されているが、災害時には避難者の居住空間や備品の保管場所としても使うことができる。多目的室は、床張りになっていて、卓球台や室内テニス用のネット、筋トレ器具、ヨガマットなどの運動器具が置いてある。茶道などのサークルのために和室もあり、木給湯設備や茶道具などが置いてある。サークル活動での料理教室や、カフェ営業やチャレンジショップなどをやってみたい人が調理できるように調理室もある。図書コーナーは、古い本だけではなく、絵本や実用書、学習用参考書など、それぞれの施設で利用者からニーズのある本が置かれている。移住者向けの案内や街のイベントをアナウンスするコーナーとして、デジタルサイネージが設置されている。また、小さな子どもが気軽に遊べる屋内の遊具スペースや授乳室もある。

さらに、地域の人が活動する内容や場所のニーズに合わせて、中高生向けの学習スペース、テーブルとイスが常設されたフリーのカフェスペースもある。

市民センターは、訪れる人の世代に合わせた案内を行うコンシェルジュのような機能もある。もともとその地域に住んでいる人だけが活用する場所として機能するだけでなく、若い人や移住し

てきた人が活用しやすい場所として市民センターが地域コミュニティをつなぐ仲介の役割もしている。マンションが多い地区など町内会がない地区には、これらの市民センターの機能について周知する掲示板がある。

市民センターは小学校区単位で設置（「1 小学校区に 1 市民センター」）という方式を取っているため、歩いて行ける距離にあり、地域ごとのアクセス性が比較的高い。

そのほか、各地区には他県や海外から来た人が入居や宿泊しやすい居住施設（シェアハウスやゲストハウス）がある。

また、水戸市の中心市街地には、図書館や美術館といった文化的な施設、弘道館や歴史館、千波湖、偕楽園といった歴史的な建物や緑あふれる場所がある。市民会館も中心市街地にあり、市民センターと同様の機能を備えているほか、他県や海外からの方の催し、企業向けイベント、大規模な市民向けイベントなど、コンパクトな機能だけではない多様な関わりを生み出す場としても機能している。

中心市街地は、その他地域のコミュニティの方が交わり合う機会や場としてちょうどいい距離感になっており、車以外でも移動できるように、バスや電車などの公共交通機関やその他の公共交通手段などで地域コミュニティと中心市街地が結ばれている。

・市民の活動について

もともと住んでいる地域コミュニティの住人は、各地区の町内会に加入しておりお祭りや運動会、清掃活動、防災訓練、緑化推進活動、子どもや高齢者の見守り活動、防犯活動、回覧板や広報みとの配布、行政への連絡調整、意見要望のとりまとめなどを行っている。地域の人はこれらの各種活動に参加したり、昔ながらのお祭りなどの行事の手伝いをするすることでそのまちの歴史や人を知ったりしている。

マンションが多い地区など町内会として機能していない地域コミュニティに住む人は、マンションの掲示板によって、地域にある市民センター

の場所や市民センターの機能について情報を得ている。地域の活動に参加したり、地域とつながりたいときは、市民センターにあるアナウンスコーナーで情報を得ている。

他県から移住してきてその地域で住む場所を探している人や、賃貸住宅を借りるのが難しい外国人は、各地区にあるシェアハウスやゲストハウスで暮らしている。シェアハウスやゲストハウスにはオーナーやホストファミリーがいて、移住者に市民センターがあることを案内したり、もともと住んでいる人たちとつながれるように支援している。また、地域コミュニティに交わりやすくなるようなイベント（ためしもいちのような企画）を行うことでの参加することで地域に馴染むことができる。

子育て世帯は、子どもをちょっと遊ばせたい時は、市民センターにある屋内の遊びスペースを利用している。屋内の施設なので夏の暑さや虫刺されの心配もなく、走り回ったり、積み木やボール遊び、トランポリンなど、体を動かす遊びをして過ごしている。

本を読みたいときには市民センターにある図書コーナーを利用している。県立や市立の図書館と連携しているので、図書館で借りた本をそこから返却したりもしている。

中高生は市民センターにある学習スペースで勉強して過ごしている。

子ども食堂などの運営や活動をやってみたい NPO 団体や、カフェのお店を経営してみたい人は、市民センターにある調理室やカフェスペースを利用して、お試し運営やお店を開店できるかどうかチャレンジしている。

そのほかのライフスタイルとしては、中心市街地にある県立図書館の広場で体操をしたり、美術館で行われるイベントに参加したり、千波湖でランニングをしたりもしている。水戸市民会館では自分の好きなアーティストの公演に行き、友人と一緒に参加して休みを満喫している。親子は、子ども向けイベントやマルシェが中心市街地の広場で行われており子どもも大人も両方楽しむ 1 日を過ごしている。地域活性化のために自分も活動

してみたいという方は水戸まちなかりビング作戦に参加して、積極的に意見を出したり行動している。これらの活動は、街に住むさまざまな地域の方であっても公共交通機関が充実しており距離的に均等に近いところにあるので、行きたいときに行くことができている。

・まちの魅力について

このまちは、自分が住んでいる地域の人々と支え合いながらコンパクトな範囲でも暮らしを楽しみながらやりたいことに挑戦できるまちである。

市民センターを始めとした場所での地域コミュニティの活動を通して、若者や高齢者、核家族、移住者が仲良くなったり元気になったり助け合ったりなどの交流が生まれている。

さらに近場には、自分の好きな文化活動ができる場所や歴史的な場所があるので、ひとびとはまちに親しみを持つことができている。まちなかには緑あふれる環境が充実していることで、四季を感じながら歩いてみたいと思え、ほっとすることができる。

市民センターを核にしてそれぞれ自分が住む地域コミュニティがあり、それらは中心市街地があることで、他地域コミュニティとの交流の場になっている。

車を使わなくても良い範囲で各地域コミュニティと中心市街地は結びついているので、環境問題への取り組みをしている街としてPRでき、車を保持していなくても住みやすい街となっている。

このように、元々住んでいる多世代の人や移住者にも馴染みやすくコンパクトな範囲でも楽しみながら暮らしやすいまちなので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

【提言8】どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境
動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」



・まちの環境について

茨城県には複数の植物園や動物園があり、水戸市も植物や動物を身近に感じられる環境が整っているまちである。

例えば、市内には日本3大庭園にも認められている偕楽園をはじめ、千波湖や保和苑があり、ここでは野生の白鳥やハト、鯉などの生き物が生息しているほか、千波湖では広大な敷地を活かしたドッグランもある。

水戸市民会館を含めた京成百貨店・水戸芸術館のMitorio(ミトリオ)では動物を自然に近い環境で見られる屋内型ふれあいパークがある。ここでは、うさぎ、やぎ、へび、リス、クジャク、キジ、鷹などの小型から中型の動物が飼育されており、その動物に合わせて、小さな小屋や隠れ家があったり、地面に藁が敷き詰められていたり、木の枝などが置かれていて、その動物が比較的過ごしやすい環境が再現されている。展示されている動物は通年常設ではなく、数種類ずつ決まった期間で入れ替わっている。動物と触れ合えたり、餌やりができる体験コーナーもある。

一方で、コロナ渦を経てペットブームにはさらに拍車がかかっており、動物病院は全国で13,000院ほどある。茨城県にも数多くの動物病院があり、市や県の動物愛護センターなどの公営施設があ

る。動物病院は市中心部だけでなく市境にもある。それぞれの動物病院には、市民が保護してきた犬や猫を預かれるように、保護犬猫専用キャリーやケージが備わっており、野生環境下での生活によって生じる体内外寄生虫のリスクや感染症などの被害が他の動物へ拡大することを防げるようになっている。

・市民の活動について

このまちの人々は、様々な事情で動物を飼育できない人も含め、植物や動物と日常的に触れながら過ごしている。

学生から40代くらいの若者は千波湖に生息するきれいな植物や生き物の写真を撮ってSNSに投稿している。高齢者は千波湖や偕楽園といった自然の中で散歩したりランニングなどの軽い運動をしたりして過ごしている。ペットを飼っている人は、犬の散歩がてら千波湖を一周したり、ドッグランを利用している飼い主同士で共通の話題で交流している。

Mitorio(ミトリオ)にあるふれあいパークには親子や小学生のこども同士で遊びに来ている。展示されている動物を見たり、動物に直接触れたり、餌やり、鷹匠体験などのふれあい体験をしている。展示されている動物も一定期間ごとに入れ替わ

るので、人々は新しい動物を見るために繰り返し訪れている。Mitorio(ミトリオ)は水戸駅からのバスも走っていてアクセスも良いので、イベントに来たついでに水戸駅や百貨店で買い物したり、水戸芸術館で芸術鑑賞をしたりしている。

一方で、保護すべき犬や猫を見つけたときにはすぐに動物病院を頼ることができている。動物病院は市民とボランティア団体の仲介役となり、ボランティア団体は保護犬や保護猫を飼いたい人へ繋いでくれるので、このまちでは、単身者から夫婦、様々な事情でこどもをあきらめざるをえない家庭、動物が好きな家族、戸建てを建てたきっかけに動物を迎え入れる家庭など様々な家庭で、保護犬や保護猫を家族の一員としてお迎えしている。

また、犬や猫の保護活動をしている民間のボランティア団体などがあり、ボランティア団体は動物病院と連携している。例えば、市民が動物病院へ届けた保護犬や保護猫が新たな飼い主に引き取られるまでの世話をしている。また、一人一人の市民も、捨て犬・捨て猫を見て見ぬふりすることなく保護したり、動物病院へ届けたりしている。

・まちの魅力について

このまちの人々は、日常的に人以外の動植物を身近に感じていることで、気持ちをリフレッシュしたり、不安感・ストレス・緊張感などを和らげることができている。

千波湖や偕楽園では豊かな自然やそこに生息する生き物を見ることができるので、リラックスしたり癒やされている。さらにドッグランがあるので、普段偕楽園や千波湖に来たことがない人が来るきっかけにもなり、訪れる楽しみにもなっている。

こどもたちは、動物とふれあうことによって、レアな生き物について親子で話し合う機会が増え、お父さんやお母さんと一緒に学んだという楽しい思い出を作ることができている。たとえ様々な事情で動物を飼育できないひとや家庭であってもふれあいパークがあるので動物を身近に

感じ楽しむことができている。動物とのふれあいは好奇心や感受性の成長や発達に大きく貢献してくれるため、人間だけではできない教育の1つにもなっている。

さらに、このまちには、皆で動物を守る愛護の気持ちもあふれている。たとえば犬や猫を様々な要因で育てることができないために捨て犬・捨て猫を保護することに抵抗があっても、近くの動物病院に連れて行けば連携しているボランティア団体に保護犬や保護猫を受け渡していける支援体制があるため、命のバトンを繋ぐことができている。それにより、悲しい連鎖を断ち切ることができている。

このまちでは、人々は生き物への愛着の気持ちをもっており、人間と動植物が共存しやすいことが魅力となっているので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

私が理想とするまちは、歴史や文化といった古いものも大切にしつつ、若者（高校卒業後から大学卒業後くらい）が住みたくなるような新しいものも受け入れているまちです。このまちでは、若者が収入を得ながら住むことができる経済・住宅環境があります。

経済環境として、水戸には、偕楽園や好文亭など昔から守ってきた歴史や文化、駅北の商店街などの街並みがあります。そして、昔からあるそば屋さんなどの飲食店、おだんご屋さんなどの和菓子屋、金物屋など、歴史や伝統を守ってきたお店があります。そこではもともとのお店の歴史を感じられるように古風な壁や窓枠などを残しつつも、若者が好むように、飲食スペースは現代的な造りになっているなど今風なおしゃれさも取り入れられています。また、若者が働いている姿がお客さんや観光客に見えるように、店舗は比較的小さい造りになっていたり、オープンキッチンの設備があります。

一方で住宅環境としては、水戸で働く若者が市内で生活できるように、空き家がリノベーションされ住めるようになっています。

・市民の活動について

このまちの若者は、古くからあるお店にも若者が好むような現代的なおしゃれさも取り入れられていることによって、そのお店に興味を持ち働いてみたいと思い、就職しています。そこでお店の伝統や技術を学び、ゆくゆくは後継者になっています。店側も、積極的に若者のアイデアを取り入れて、SNSで情報を定期的に発信してもらうなどしています。

観光で水戸を訪れた若者も、オープンキッチンやカウンターの後ろで自分と同世代の人がお店で働くのを見て、このまちで働いてみたいと思うようになり、このまちに集まってきます。オープンキッチンでは店員とお客さんの距離が近いので、店員からお客さんへ水戸の魅力を伝えたりもしています。

このような店舗が集まったマルシェも開かれています。それぞれの店舗のファンが集まって交流することで、新たなファンの獲得にもつながっています。

また、このまちには単に仕事があるだけでなく、安く住める住環境があるので、若者は水戸で暮らし働いています。

・まちの魅力について

このまちは、歴史や文化を大切にしながら、柔軟に若者を受け入れているまちです。

水戸は古いものと新しいものが両方あるまちです。伝統ある場所で若者が活躍していることで、古いとは言わせない、新たな文化も柔軟に取り入れるまちになっています。

若者が多く集まる事でまちが活気に溢れ、若者が安定した収入を得られるので経済的にも豊かなまちになっています。また、伝統を守ることによる安心感や伝統が途絶えなくて済む安心感も生まれています。

さらに若者が「安く住み」「活躍できる」ことで、市民と観光客の両方が増えています。

このように、若者が活躍できるまちなので、皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちは、都内から電車1本で来ることができ、駅を降りてからも歩いて楽しめるまちである。

このまちには日本三名園の偕楽園をはじめ千波湖、千波公園がある。ここは、クラフト市、こども祭り、公園内でのキャンプ、ヨガ、音楽ライブ、お酒のイベント、高校や大学の文化祭等の様々なイベントが開催できるように、〇〇がある。

都内から電車でアクセスできるように偕楽園駅は週末イベントに合わせて臨時開駅され、駅からは偕楽園や千波湖まで歩きで行ける直結ルートがある。そのルートには偕楽園周辺の豊かな自然や千波湖の白鳥を眺められるスポットなどがある。

・市民の活動について

このまちには、車を持たない都内近郊の若者や高齢者が、電車を利用して来訪する姿も見られます。

市内では多くのイベントが開催されており、特に千波公園においては、春から秋の週末にクラフト市、こども祭り、公園内でのキャンプ、ヨガ、音楽ライブ、お酒の飲み比べイベント、高校や大学の文化祭等様々なイベントが開催されている。

イベント会場内では様々なイベントブースが

あり、お客さんは自分の好きなブースに立ち寄り、スタンプラリーのように会場内を回遊している。

また、学生はこれらのイベントにボランティアとして携わっている。社会で実際に働いている大人や企業とイベントを通して仕事の手伝いをしたり、話を聞いたりすることで、将来の自分の職業体験につながっている。

高校生や大学生は学校内ではなく千波公園で文化祭を開いている。学校内ではなくいろいろな人が利用する千波公園で行うことで、普段学校に関わりの無い人たちも文化祭を見に来ている。

偕楽園駅からイベント会場までは道がつながっているので、人々は偕楽園や千波湖の豊かな自然や白鳥を眺めたりしながら、イベント会場まで歩いて移動している。

・まちの魅力について

このまちは、都内からも若い世代や高齢世代が来たくなるような楽しいまちである。

水戸駅まで行かなくても偕楽園駅で降りればすぐイベント会場までアクセスできるので、駅を降りてから何しよう、どこへ行こうと迷うことがないし、電車で来ているためお酒のイベントなどにも気兼ねなく参加できる。都内からたくさん人がやって来ることで、通常地元の人しか来ないよ

うなイベントの質も〇〇に変化している。

こうして水戸を訪れた人々は水戸はいいところだと気に入っている。それにより、今以上に市内外から人がたくさん来るようになり、来訪促進に繋がっている。

学園祭や文化祭も、学校内ではなく市民の憩いの場や観光地でもある千波公園でやることで、学校関係者だけでなく一般市民も来場し、学校のPRや魅力向上にもなっている。

多くの人が偕楽園や千波湖を訪れまちが賑わうことで、地域経済の活性化になっている。

電車1本で偕楽園駅から歩いて千波公園等の目的地まで行くことができ、そこで自由に周遊することで「歩いて楽しめる水戸」という新しい魅力が生まれているので、水戸市は皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちは、様々な魅力を兼ね備えており、居住者も観光客もとりあえず行ってみたいと思える特徴的なエリアや水戸らしいと思えるものがいくつも存在します。そこを歩けば、以下のように水戸市のまちづくりの特徴がよくわかるようになっています。そして、これらは、市民にとって水戸らしさのあるところ、水戸の好きなところになっており、市民が水戸を推すポイントにもなっています。

一つ目の特徴は、豊かな自然です。このまちは千波湖や偕楽園のような大規模な緑だけでなく、中心市街地をはじめとする市街地部も緑豊かで、都市と自然が調和し、双方の魅力を一層引き立てています。例えば、駅南に広がる桜川と桜並木や下市の備前掘り、まちなかから千波湖まで続く緑地、街路樹や桜並木もまちを彩っています。千波公園西の谷や逆川緑地にはホテルが生息しており、サケの遡上も確認できるなど水環境も保全されています。

二つ目の特徴は、歴史の深さを感じる景観です。例えば、日本三名園にも数えられる偕楽園、日本遺産になっている弘道館、復元された大手門や隅櫓、歴史的町並みを演出する二の丸の白壁などがあるほか、江戸時代から変わらな

い町割りが見られる中心市街地、備前掘りが特徴的で町開き 400 年を迎えた下市、そしてそこでの暮らし・営みなど水戸の歴史の深さを感じられる景観が各所に見られます。

三つ目の特徴は、生き生きとした市街地です。特に中心市街地は多くの商業施設・文化施設が集積し、多様な経済・文化活動の場になっています。若く活力のある店主が個性的な店舗を経営し、それぞれの店舗とその集積が市内外の人々を楽しませています。道路空間も自動車ではなく「人中心」で快適性・滞在性に富んでおり、夏の暑さや冬の寒さともうまく付き合いながらまちなかを楽しめる環境が整っています。店舗は空きが出ればすぐに埋まってしまうほどで、不動産の流通も適正な価格で円滑に行われています。挑戦するなら中心市街地で、というイメージが定着しており、挑戦する人だけでなく、応援し支える人々のネットワークも存在します。

さらにこれらの特徴的な環境を市民一人ひとりが自覚し、それぞれの価値観の中で楽しみながら市民間で活発に情報が共有されています。市の公式 SNS は市民の大半がフォローしており、行政と市民の相互の情報共有が実現しています。

・市民の活動について

このまちの人々は、日常的に緑に囲まれ、まちななかでも四季を感じながら過ごしています。街路樹があることで日陰もでき、真夏の暑い日でも歩いて移動することができます。また、千波湖やせせらぎ広場、逆川緑地などの水辺にも多くの人々が集まり、豊かな自然環境を日常的に満喫しています。

ゆっくりと穏やかな時間を過ごしたいときには、水戸の歴史を感じられる場所に出かけます。歴史の深みを肌で感じながら、時に無心になり、時に自分の考えを整理し、心を整え、新たな活力を生み出します。二の丸の白壁の通りでは、着付け体験や着物での写真撮影イベントに参加したり、お団子や和菓子の食べ歩きをしたり、夜のライトアップを楽しんだりと様々な人がおり、そうした様子もまた明日への活力となっています。

余暇の時間は、中心市街地を訪れて散策したり、個性豊かな店舗や文化的なコンテンツ、そこに訪れる人々との偶発的な出会いを楽しんだり、千波湖のランニングコースでランニングをしたり、四季の原でピクニックや球技を楽しんだりなど市民一人一人が思い思いの楽しみ方を実現しています。また、市内では多くのイベントが開催されています。例えば、千波湖や四季の原では広大な自然を活かした親子で楽しめるイベント、芸術館の芝生広場では手作り雑貨のマルシェ、駅前では市内だけでなく茨城の地場産品が集まったマルシェ、二の丸の白壁通りなど三の丸エリアでは歴史情緒を活かした体験イベントなど、日々様々なイベントが市民と来街者を楽しませています。

こうしたイベントの多くは「次世代を担う子たちに水戸での豊かな体験を与えること」や「茨城の水戸として県内各所とのつながること」、「市民の“やってみよう”を実現する機会とすること」をコンセプトに開催されています。

更に、このように水戸で暮らす様子や日々感じられる「水戸らしさ」を水戸の推しポイント

として、日ごろから SNS にアップしています。それらの投稿には共通のハッシュタグが用いられており、その投稿を見た人が期待感をもって水戸市を訪れています。

・まちの魅力について

このまちは、市民一人ひとりが水戸の良さ、水戸らしさを認識しているまちです。

こうした認識は、一人ひとりがこのまちに愛着を持ち、日々の生活の中で自分から水戸のまちに関わっていくことで生まれます。

緑が多いまちななかで快適に暮らせば、心にゆとりが生じます。歴史的エリアで水戸らしさを体感すれば、「水戸ってこんなところなんだ」という印象を持ち、水戸ならではの魅力を理解することができます。週末や余暇の時間は、とりあえず行ってみたいと思える場所が水戸にいくつかあるので、今日はどこに行こうかと考える楽しみを持つことができます。

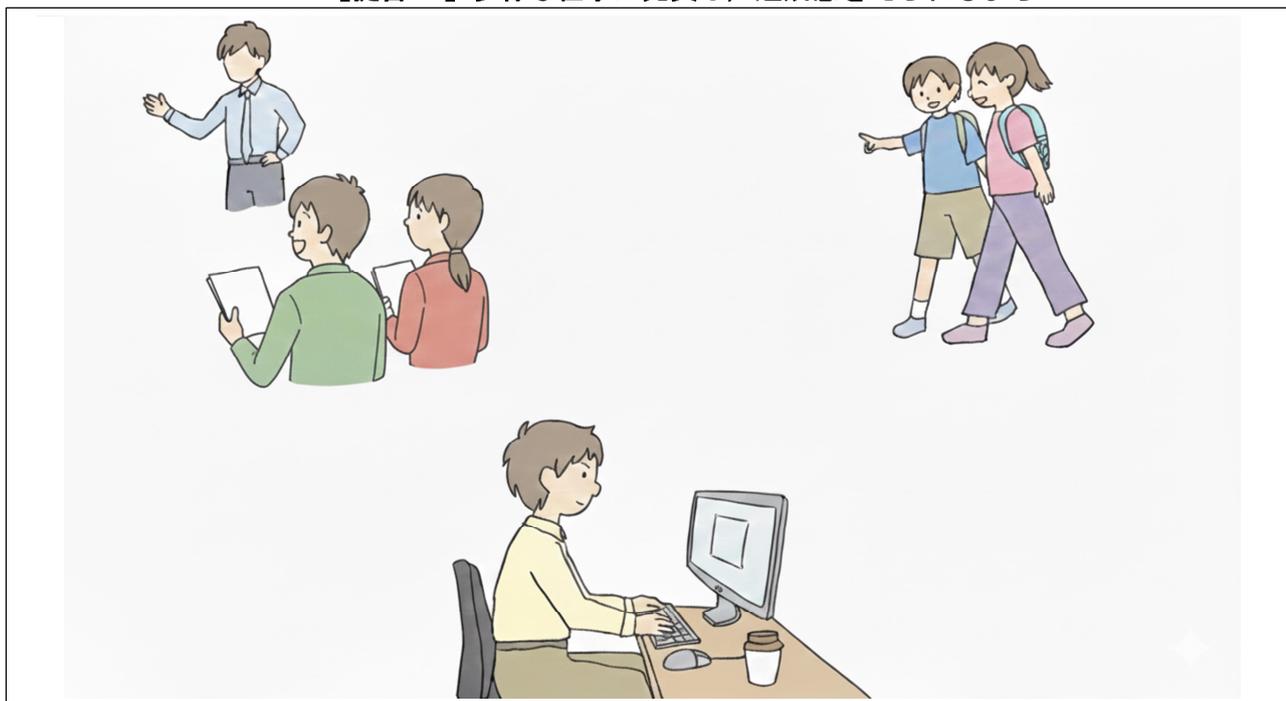
何よりも、このように水戸での暮らしを楽しんでいることを市民一人一人が発信していることで、市民はこのまちの推しポイントを自覚し、明確に相手に伝えることができます。このように、このまちで暮らす人たちは日々の生活の中で水戸をさらに好きになり、「水戸が好きだから水戸に住む」という感覚が自然なものとなっています。

一方で、市外の人にとっては、水戸で人々がどういう暮らしをしているかが見える状態にあることで、水戸への移住を検討するときに安心につながっています。このまちには日常的に身近なところ楽しみがあり、そこに住んでいる人が楽しんで暮らしているということが伝わっているので、居住地として水戸を選んで後悔しないと思えて、多くの人に移住してきています。

このように、水戸に住みたいと思える人が増えるので、皆から選ばれています。

このまちを実現するための課題と取組を P○ に記載します。

【提言 12】多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち



・まちの環境について

このまちは、大学新卒から 20 代前半くらいまでの若者や子育て世帯が自分のライフスタイルに合った仕事や働き方ができるまちである。

このまちには、営業系・事務系・技術系・サービス系などの様々な職種や、農業・製造業・サービス業などの様々な業界の仕事が幅広くあり、働きやすい環境が整備されている。例えば、自宅と職場が通いやすい距離にあったり、スキルアップのための研修、成果に応じた臨時ボーナス、育休、時差出勤、長期間のインターンシップなどの制度がある。また、子育て中の人がかどもを預けて働けるように保育施設が会社に併設されている。

市内には、バスや電車などの、乗り換えしやすく快適な公共インフラの他、水戸市民会館など合同企業説明会を開催しやすい施設も整備されているため、市内に住む人、市外に住む人が働きやすいようになっている。

・市民の活動について

このまちの人々は、自分のライフスタイルに合った仕事を選び、柔軟な働き方をしている。

ここでいう柔軟な働き方とは、働く時間と場所を自由に選べる働き方である。具体的には、フレックスタイム制や時差出勤、テレワークなどの制

度が充実しており、若者が個々のライフスタイルやライフステージに合わせて、働く時間や場所を自ら選択できる働き方が該当する。

働き方の具体例としては、若者は、職場でスキルアップの研修を受けて主体的に仕事をし、会社から評価されると臨時ボーナスが出るので積極的に仕事をしている。効率的に仕事に取り組み、残業もなく、休みもとりやすい働き方をしている。

こどもが生まれたときには、こどもが小さいうちは育休を取って育児に専念したり、仕事に復帰したら時差出勤を利用して朝保育園にこどもを預けてから出勤したりしている。

一方で、プライベートの時間では趣味に没頭したり旅行に出かけたりしている。例えば、休日にはしっかり休みを取り家族みんなで千波湖や偕楽園に出かけたり、音楽ライブに出かけたりしている。時差出勤を利用して、午後は早く帰り、日中しか開いていない美術館に行ったり、友達と夜遅くまで遊んだ日は、時差出勤を利用して翌日はゆっくり休んで体調を整えてから仕事に出かけている。

新卒や転職する人は企業の合同説明会に参加し、先輩社員から仕事や働き方の本音について聞いている。企業を実際に見学に訪れたり、一か月

程度の長期のインターンシップに参加して、就職前の想像と就職後の現実とのギャップをなくし、イメージ通りの仕事や能力的に自分に向いている仕事に就いている。

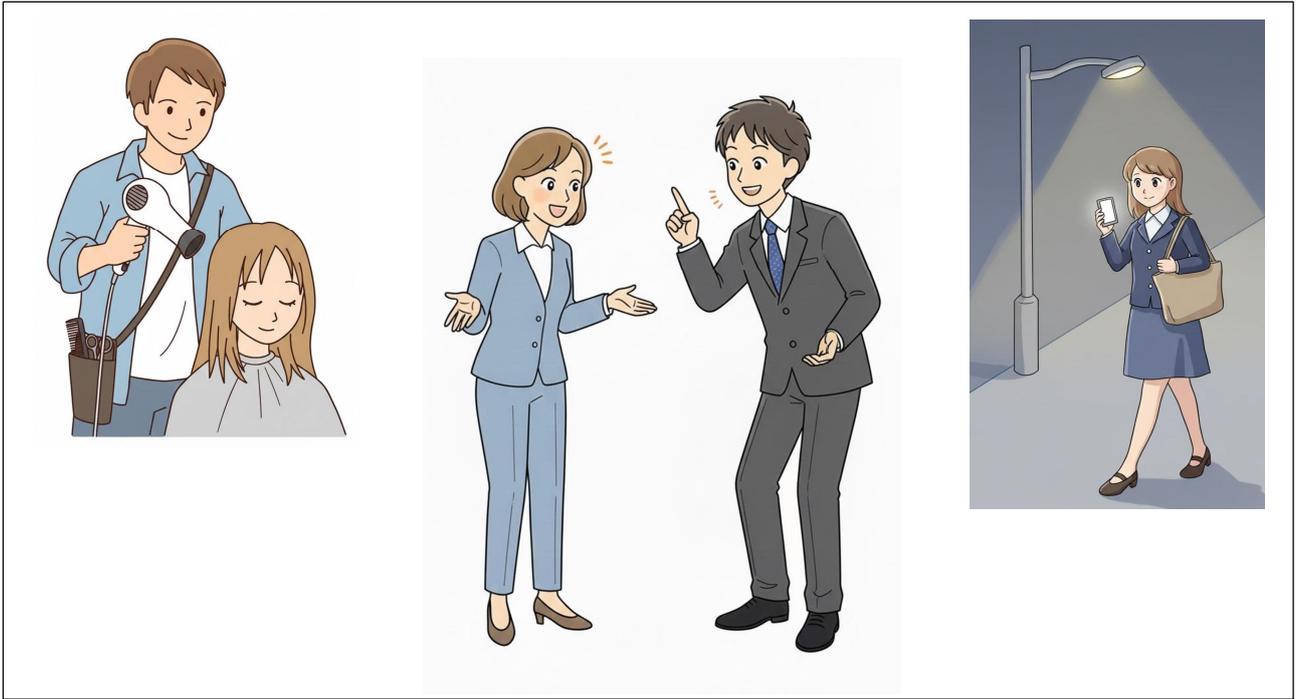
・まちの魅力について

このまちの若者は、仕事もプライベートの時間もバランス良く、豊かに楽しく暮らしている。時差出勤や休暇を取りながら無理なく自分らしく働いている。プライベートの時間では、趣味や旅行などの余暇の時間を楽しんでいる。

就職活動をしている人は、企業説明会やインターンシップに参加することで、想像と現実のギャップを少なくし、自分がやりたい仕事や向いている仕事に就いて生き生きと楽しく働いている。このまちでは、やりたい仕事に就き、達成感ややりがいを得ながら、プライベートも充実して暮らせるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

【提言 13】若者が住み続けたいと思えるまち



・まちの環境について

このまちは、水戸で大学進学や就職を考えている人が暮らしやすいまちである。

このまちの教育・就業環境としては、県立や私立の高校や大学、大学院、専門学校も数多くあり、進学先が豊富にある。また、美容・服飾・デザインなど、自分のスキルを活かせるクリエイター系の就職先のほか、在宅勤務やフレックス等新しい働き方ができる職場などの選択肢も豊富に存在している。

そして、水戸で進学したり就職したい人のために、進学先情報や就職先情報を一括して見られるポータルサイトがある。このポータルサイトには、市内で働いている社員や市内の学校に通う学生の声、市内で行われる就職に関する講座の情報、奨学金の情報がまとめられており、水戸で進学したい、働きたいと思う人がインターネットからいつでもどこでも情報を得ることができる。

また、就活や働き方についての意見交流や情報共有ができる場として、就活中や同じ分野で働く人など同じ立場の仲間や先輩社会人との交流会、企業見学、インターンシップが多く行われている。

一方、生活する環境としては、市内には街灯や防犯灯が適切に設置され、通学路や通勤路が明るく照らされている。また、自動車や自転車と歩行

者が接触しないように、道路にはスクールゾーンや自転専用レーンが整備されている。また、学校、図書館、市民会館のような公共施設で集中して学ぶことができる環境が整っている。

水戸駅から大工町周辺、ミトリオ・市民会館・芸術館の広場においては、フリーマーケットやキッチンカー、学生の部活や社会人のサークル活動の発表、企業による研究発表などのイベントを開催しやすいように、総合的な運営マニュアルや、共用で使用できる音響設備や大型ビジョンがある。また、運営をスムーズに行うことができるように、対応窓口が分かりやすく示されている。

・市民の活動について

このまちで進学や就職を考えている若者は、学校や就職先の情報をポータルサイトで調べている。また、交流会やインターンシップに参加し、民間企業の働き方、就活の仕方、公務員、大学院の情報など実際の声聞いて情報収集している。就活中や同じ分野で働く人などの同じ立場の仲間や先輩社会人と交流することで、在宅勤務やフレックスなどの新しい働き方や、水戸で働きながらどんなビジョンを持っているか、その仕事地域の中でどんなはたらきをしているかといった

地域での活躍の仕方を学んでいる。それにより、自分の求めている働き方を確立し、自分のやってきたことが生かせる会社や大学で取得した資格を生かせる会社に就職している。

また、歩道は自転車や歩行者が通行しやすいように整備され、夜間は街灯で明るいので、車を持っていない人も自転車や歩きでまちなかを移動している。若者は暗い時間まで学校で学んだり、職場で働くなどやりたいことに打ち込んでいる。遊びに出かけるときも、時間を気にせず出かけている。また、学生に限らず、幅広い年齢層の人が生活を豊かにするための学びに打ち込んでいる。

休みの日には、まちなか（水戸駅から大工町周辺、ミトリオなど）で行われているイベントに参加している。そこでは、自分で開発した食べ物や、ハンドメイド作品をフリーマーケットやキッチンカーで売ったり、企業が研究した成果を発表したり、学生や社会人が部活やサークル活動の発表をしている。ここでは、単に「買い手」として商品やサービスを消費するだけでなく、「売り手（発信者）」として自分のアイデアや商品を提供し、主体的に経済活動をしている。具体的には、商品の背景にある工夫や思いを来場者に説明したり、SNSや名刺交換を通じてつながりを広げるなど、「自分の活動の意味」まで含めて伝える交流が生まれている。こうした活動により、売り手としてその人のやっていることを他者と共有している。

・まちの魅力について

このまちの若者は、地域にいながら多様な進路を描くことができている。

たくさんの進学先、就職先が市内にあることで、幅広い選択肢の中から自分の進みたい道に進むことができている。また、ポータルサイトや交流会、インターンシップで事前に情報を集めることができるので、自分が選択できる中でできるだけ良い選択ができている。そのため、進学すること、働くこと、社会に出て行くことへの不安がなく、将来への希望を持っている。

また、このまちは、大学進学や就職に伴い水戸で新しい生活を始めるときなど、特に単身で暮ら

す若者にとって不安を感じることなく生活できるまちである。夜でも暗いところが少なく、歩きや自転車でも安心して移動できるので、学業や仕事に打ち込んだり、時間を気にせず他者と交流したりすることもできる。環境や治安のせいで自分のライフスタイルを害されることがないので、より自由に幸福な人生になる。また、学びを効率的に行う環境が整っていることで、市民の自己実現や生活の向上につながる。

さらに、休日にはイベントが行われているので、まちには活気が溢れている。若者は主体的にイベントに参加しているので、休日は水戸で何をしたらいいかと思うことがない。自らのアイデアや商品を提供し、お客さんに見てもらい（買ってもらう）ことで、自己肯定感が向上し、主体的に生活を送るモチベーションが生まれる。一方で、イベントを見に来たり買いに来たりした人たちは、地元で地域のイベントに楽しく参加している人を見ることで、水戸に良い印象を持ってくれる。

このように、人々は自分らしい生き方ができていることから、水戸は楽しくていいまちだと思っているので、地元に対する愛着が湧いている。水戸で進学、就職し、ひいては、このまま水戸で結婚や子育てをしたいと考える人が増えるので、皆に選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちは、大学生くらいの若者から高齢者までの世代も自分の好きなことを楽しめるまちである。

このまちには市民に親しまれている偕楽園があり、そこでは紅葉や梅のライトアップが行われている。夜でも歩けるように、偕楽園駅から偕楽園までの道のりや園内は街灯が整備されている。

千波湖では、映画の野外上映ができるようにスクリーンがあり、参加者用には貸出しシートが用意されている。ここでは、イベントで様々な人が出店しやすいように、机やテントの貸出しのほか、出店者向けに講演会なども行われている。また、安全に走ることができるよう舗装されたコースがあり、イベントの時以外でもランニングを安全に楽しめるよう、千波湖周辺にも街灯が整備されている。

・市民の活動について

このまちの人々は、千波公園や偕楽園などで行われる様々なイベントに自然と集まり、思い思いの方法で参加している。

例えば偕楽園では、紅葉や梅の季節にライトアップを楽しむことができる。

また、千波公園では、市民が出店（運営）者と

しても参加するイベントとして、映画の野外上映、クリスマスマーケット、マルシェ、高齢者が主催する蚤の市、若者が主催するフリーマーケット、千波湖1周ランニングイベントなどが定期的に開かれている。

千波湖で夜行われている映画の野外上映やクリスマスマーケットには、若者が友達同士や1人でふらっと身軽に立ち寄り、用意されているシートを借りて自由に映画を見たり、おしゃべりしたり食べ歩きしながらゆったりと自分の時間を過ごしている。

若者主催のフリーマーケットでは同年代同士でイベントの楽しさを伝え合ったり、市外から来ている人には水戸のおすすめのお店や場所を紹介したりしている。また、水戸に来たついでに偕楽園などを観光したりしている。

蚤の市では高齢者と若者が商品の話をとおして、趣味や価値観、古物の歴史、時代による生活スタイルの違いなどお互いの知らないことを共有し、世代を越えた交流をしている。

ランニングイベントには多世代の人が参加し、ストレッチをしながら、普段あまり会話をする機会のない世代とおしゃべりをしている。また、高齢者はこのようなイベントに参加することで心身の健康維持にもつながっている。

さらに、市外から移住してきた人もこれらのイベントに参加することで、まちの人たちと交流するきっかけになっている。

これらのイベントは無料で出店や入場ができ、場所も千波湖や偕楽園といった近場で開かれているので、誰でも行きたいときに行くことができる。

・まちの魅力について

このまちは、若者から高齢者までどの世代もイベントに参加するだけでなく、出店・運営する側としても活躍しているまちである。

高齢者は年齢などにとらわれずイベントに参加することで日々の楽しみができ、生き生きと暮らしている。

若者はイベントに参加することで、楽しい思い出や人と人とのつながりができ、地域への愛着が生まれている。それによって、また水戸に戻ってこよう、水戸に住み続けたいと思うようになり、水戸で就職し活躍している。

イベントでは市内外の人が交流することにより、住みやすさや人のあたたかさなどの水戸の魅力が市外に住んでいる人にも伝わり、水戸に移住したいと思うきっかけにもなっている。また、移住してきた人もイベントに参加することで地域の人との交流が深まり、このまちに親しみを持つので不安を感じることなく安心して暮らすことができている。

このように、誰もが水戸市に郷土愛を持ち、ここで暮らし活躍したいと思う人が増えているので、このまちは皆に選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちは、人と人の交流が盛んで人とまちがつながっていると感じられるまちである。

水戸は茨城県最大の商業圏であり、昼間の交流人口が多い。このまちには、人々が集まる場所がある。例えば、春は桜、秋は紅葉、冬は梅など四季折々の自然が豊かな偕楽園や千波湖、千波公園、カフェや飲食店などの小売店の店舗が多い大工町や南町を中心にしたエリア、大規模なショッピングセンターやホームセンター、ケーズデンキスタジアム、体育館などがある。

また、このまちには大学生や若者が就職したり起業しやすいように、合同企業説明会を開催できる施設や起業支援の場がある。

・市民の活動について

このまちには、他地域から仕事、通勤、通学、遊びやイベント、買い物でたくさんの人が集まっている。東京を中心とした商業圏からも近く、車で2時間で来られる距離にあるため、多くの人々が集まってくる。偕楽園や千波公園には、家族連れが訪れ、季節の植物を観賞しに来たり、ボール遊びをしに来たりしている。千波湖では夜はランナーが走っている。千波公園で行われるちびっこ広場では、幼稚園生

や小学校低学年のこども、親子連れが遊びに来ている。商工会のテントで揚げパンや焼きそばを買ったり、パトカーや消防車の展示を見たり、乗車体験に参加している。

中心市街地で行われるまちなかフェスには、市内外から多くの人を訪れている。裏通りのお店によるキッチンカーやテント販売に立ち寄ったり、高校生の部活による吹奏楽や太鼓の演奏を楽しんだりしている。また、地元のモノづくりの企業が製品をアピールするブースを出店している。車イスに乗る体験を開催していたり、レバー1つで運転できる車イスなどの最先端技術の展示を行っている。

イベントが少なくなる秋や冬にも、日常ではできないようなイベントが開かれている。千波公園では、お酒の立ち飲みイベントが行われ、友人同士や夫婦でお酒を飲み比べたりしながら、会話を楽しんでいる。市内の体育館では、バスケットボールやドッジボール、バドミントンなどのスポーツイベント、オセロや将棋などのボードゲームのイベントが開かれている。スポーツイベントにはサークル単位や家族で友人グループで参加したり、あるいは1人で参加する人を集めて連合チームを作ったりして参加し、体を動かしている。また体育館を開放し、学生から大人まで様々な人が

体育館で運動をして汗を流している。ボードゲームのイベントは世代を問わず遊べるので、多世代の人が参加し、異なる世代で交流している。

その他大工町や南町では、友人とランチを食べに来たり、夜は居酒屋で会社員や大学生が飲み会をしている。

ショッピングセンターやホームセンターには、学校や仕事の終わり、休みの日に、本、服、日用品などを買いに来ている。

ケースデンキスタジアムで行われるたこあげイベントには、親子連れが訪れ、たこあげを楽しんでいる。

また、このまちはこうした様々なイベントを支える人達として、イベントで活躍する大学生のボランティアサークルや高校生のサブリーダーズがある。例えば大学生は市内外の介護施設や小学校の運動会のボランティアに行っている。介護施設では、高齢者と一緒にコマ回しや将棋・オセロなど、世代をこえた交流をしている。小学校では、運動会の準備や片付けの手伝い、休み時間に児童とおしゃべりして、今小学校で流行っていることや世代の違いを話したりして交流している。高校生のサブリーダーズは、たこあげイベントで参加者の受付など運営の補助をしている。また、まちなかフェスではヨーヨー釣りや型抜きブースを出店し、遊びに来た家族連れやこどもたちと交流している。

このまちで働きたいと考えている若者は、大学と地元企業が連携した職業体験に参加したり、合同企業説明会に参加し、地元で就職している。

また、市内の起業家は、これから水戸で起業にチャレンジしようとしている若者を支援している他、経営ノウハウのPRをしたり、まちフェスで事業紹介のブースとして出店する手助けをしている。若者はこうした支援を受けて、水戸で起業している。

・まちの魅力について

このまちでは、コミュニケーションによって、人と人とのつながりが広がっているまちである。

同じ価値観や趣味の人と話すことで、ストレス

を発散したり、自分の気持ちを表したり、新たな交流の輪を作ったり、じぶんの気持ちや感情の表現することができている。さらに異なる世代で交流することで、お互いの価値観や考え方を共有でき、多様性や活気が生まれている。コミュニケーションによって自分の良さを知ったり、人から影響を受けることで、自己成長できている。

若者は様々な活動に参加して活躍しており、地元企業も起業支援や就職支援を通じて、若者が水戸に定着し、地域で力を発揮できるよう後押ししている。

そのため、若者は日々楽しく暮らすことができ、若者を始めとした市民が生き生きとしていることから、活気のあるまちとなっている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

※イラスト掲載予定

・まちの環境について

このまちは、市内に住む大学生も、進学を機に水戸を離れた大学生も、県外から転入してきた大学生も、水戸に住みつづけたくなる、水戸に戻ってきたくなる環境が整ったまちである。

就職面では、市内及び県内には IT 企業や銀行、建築業界、自動車業界、公務員など様々な業界、業種、職種の就職先が多くあり、大学卒業後も水戸で働ける、あるいは水戸で暮らしながら働ける環境がある。また、就活中の大学生を対象に県内企業に絞った合同企業説明会も行われている。

生活面では、食料品を買えるスーパー、フラットファイルや封筒、印鑑、名刺入れなど授業や就活で使うものを買える 100 円均一ショップ、都市銀行や地方銀行の支店、郵便局が自宅や大学から近いところに多くある。

このまちには、偕楽園、護国神社、歴史館、千波湖など、地域に根付いた施設等があり、これらの施設等は市民の余暇でも活用できるようになっている。

・市民の活動について

このまちに住む若者や就職を機に市外から水戸に戻ってくる予定の人たちも、市内や県内で就職できる環境が整っているため、大学卒業後も引

き続き水戸で暮らしている。市内の大学生はもちろん、水戸で就職を考えている県外の大学生も合同企業説明会に参加し、水戸で暮らしながら就職している。大学を卒業後も水戸から出ずに、あるいは水戸に戻ってきて就職することで、地元の友達ともいつでも会えたり、大型連休のようなまとまった休みのときでなくても、家族とたまに会って出かけたり食事をするなどの時間を過ごすことができている。

授業や就活で急にファイルや封筒などを用意する必要に迫られたときには、自宅や大学の近場にあるお店で、大学の授業の講義と講義の間のような隙間時間や夜など自分のタイミングで、すぐに買いに行くことができている。また、都市銀行や地方銀行の支店も市内にたくさんあるので、他県から来た大学生が地元で作った口座をそのまま水戸でも使っている。就活の書類も近場の郵便局からすぐ出すことができている。

余暇の時間には、水戸ならではの様々なイベントや場所に出かけている。

例えば、偕楽園で行われている梅の実販売や梅酒作りのイベント、護国神社の桜のお花見イベント、歴史館の水戸の歴史展や有名キャラクター展など幅広いジャンルの特別展、千波湖周辺のホテルを見られるスポット、市街地中心部で行われる

黄門まつりに出かけている。

イベントには友人と参加したり、1人でふらっと見に行ったり、ゆっくり自分の時間を過ごしている。水戸の良さや歴史を知ったり、どこでもできるわけではない水戸ならではの体験をして、水戸での楽しい思い出を作っている。

・まちの魅力について

このまちの若者にとって、水戸は住みやすく、働く場所があり、地元の友達や家族との時間も過ごせて、安心して暮らせる場所である。

このまちは働ける環境が充実していることに加え、就職先を探しやすいようになっているため、いつかは地元である水戸に戻りたいと考えている人も就職先に困ることがなく、将来への不安が軽減されている。県外から水戸に転入してきた若者もそのまま水戸で暮らしながら働いている。

スーパーや100円均一ショップ、金融機関や郵便局が近場にあるので、わざわざ遠くまで出かけるなくても必要なものを買ったり、お金を引き出したり、郵便を出したりすることができるので、快適に過ごしている。

余暇の時間は、水戸ならではのイベントに参加して、楽しい思い出ができることで、まちへの愛着が湧いている。

地元の友人や家族とも距離的に近いところでつながれていることで、安心感も生まれている。

これらのことから、このまちに住みつづけたい、このまちに戻ってきたいと思う人が増えるので、皆から選ばれている。

このまちを実現するための課題と取組をP〇に記載します。

【第2部】

理想のまちを実現するための課題と取組

第2部の見方

第2部は、第1部で描いた理想のまちの姿を実現するための働きかけを、以下のようなロジックに基づき記載しています。

①：第1部で描いた、私が理想とする水戸市の姿の要旨を記載しています



②：①の中から実現したい魅力を選び、目標と定めています



③：②の目標を実現するに当たっての課題を記載しています



④：③の課題を解決するための行政の取組を記載しています

【提言1】「活気ある教育を選択できるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、市内だけでなく市外からも子どもが通いに来る、市を代表する小中学校があります。生態系の研究に打ち込めるよう機材や図書が揃った私立の学校、教科別担当制が導入されている国立の学校、ICTや英語などに力を入れている公立の小規模特認校があり、子どもたちは、自分が望む学校を選び、学習に取り組んでいます。また、これらの学校へ進学を希望している家庭のために、入学前説明会も行われています。
- ・市内の学校に通う子どもたちは、市の学校給食共同調理場から配送される給食を食べ、課外授業で育てた野菜を収穫したり給食の食材として使われることで、みんなであたたかな給食を食べる楽しさや、生産者への感謝の気持ちなどを学んでいます。
- ・このまちなら、子どもたちが活気ある教育と豊かな自然の中で好奇心や探究心を育み、多才な才能を開花させながら成長していけるので、こどもの教育に関心が高い家庭の移住も促進されるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「活気ある食育が受けられるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

食への関心が持てるように、できたての給食を提供する

【課題解決への取組】

すべての小・中学校に給食調理場から給食を配送する。

備考

水戸市には、様々な学科と偏差値の高等学校が存在しています。現在、水戸市内には公立小学校31校、私立小学校2校、国立小学校1校（水戸市、ひたちなか市、那珂市一部から通学可）が存在。私が理想とする水戸市は、歴史や文化を大切にしながら、市外在住の人も通学したいと思えるような私立の小・中学校が存在し、学園都市のような未来と活気溢れるまちであることです。

【提言2】「負担のない出産・子育てができるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、移住してきた子育て世帯を含め、産後期から乳幼児の期間を安心して暮らせるまちです。産後期から乳幼児の期間の支援を一体化した拠点施設や、ファミリーサポートセンター、子育て世帯の親たちが情報収集したり交流できるアプリがあります。安心して子どもと出かけられるように、公園の設備も整備されています。
- ・育児や家事の支援の有無に関わらずどんな環境の家庭であっても、産後から拠点施設を利用して支援を受けることで、負担を解消したり安心して育児をすることができています。
- ・育児に負担を感じることがなく、移住してきた子育て世帯も地域とつながれて心細くなることもないので、このまちなら産後も無理をしないで育児ができ、水戸で子育てして良かったと思えるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「誰もが安心して子育てできて、希望した人が皆支援を受けられるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

どんな家庭環境であっても皆が等しく産後ケアが受けられるように、ケア施設を作る。

[産後ケア・子育て情報サイト・水戸市ホームページ]

(<https://www.city.mito.lg.jp/site/kosodate/40360.html>)

[city.mito.lg.jp]

(<https://www.city.mito.lg.jp/site/kosodate/40360.html>)

水戸市の産後ケアの現状の資料として、ホームページに載っている情報です。

【課題解決への取組】

誰でも通える産後ケア施設があり、産後から生後12か月まで無料（もしくは低額）で利用できるようにする。

※産後ケアを受けることにより、体調の回復や心の余裕が生まれ、育児に対して前向きになり、子どもたちと楽しく過ごすことができる。

(他市の参考事例)

・つくばみらい市では、住民登録がされていれば産後ケアが受けられ、費用も高額ではない。

<https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/jyumin/ninshin-shussan-kosodate/sango/page001662.html>

・パパのための産後ケアもある。

<https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/jyumin/ninshin-shussan-kosodate/sango/page006228.html>

・高崎市では、利用条件はあるが、デイサービス型と訪問型は7回まで無料で利用できる。

<https://www.city.takasaki.gunma.jp/page/3336.html>



このまちの二つ目の魅力は「核家族・移住者が安心して子育てできるまち」であり、ここではこれを目指します。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】 ①産後ケアや一時預かり、病児保育の受け皿を拡充する。
②移住者や核家族が地域と関係を築く機会づくり。
③助産師・保育士・子育てサポーター等の人員を確保する。



【課題解決への取組】 産後ケア・一時預かり・病児保育について、医療機関・民間等と連携し、拠点数と受け入れを拡充する。
0～2歳親子や移住者・核家族を対象とした交流の場を整備し、地域とのつながりを生み出す。
保育士・助産師・ファミリーサポート等の処遇改善や研修強化により、子育て支援人材を安定的に確保する

備考
その産院で出産したかどうかに関わらず、自分が希望する施設でケアを受けることができます。食事スペースでは、栄養バランスのとれた献立を栄養管理士が考えてくれ、調理師が食事を用意してくれます。

【提言3】「もう一人産めるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、出産時の不安が少なく、複数の支援の手を借りながら無理なく安心して子育てできるまちです。高齢出産や無痛分娩に対応できる産婦人科や、さまざまな教育方針の保育園や幼稚園、こどもと遊べる公共施設、スクールガード、日中勤務が中心の職場、赤ちゃん用品などを買えるお店やスーパーが充実しています。
- ・このまちの人々は、自分がどの病院でどのような出産をしたいか、こどもを預けるときには教育方針やこどもの性格に合っているかどうかなど、住んでいる環境で選ぶのではなく自分の基準で選んでいます。産後働くときも、このまちには日中勤務や短時間勤務、休みをとりやすい職場があるので、自分のライフスタイルに合わせて働いています。休息の時間や家事の時間を確保したいときには、ファミリーサポートや託児サービスを利用する一方で、休みの日にはこどもと一緒に出かけしています。
- ・出産も子育ても仕事も自分にあった選択をすることができ、安心して暮らせるまちです。それにより気持ちに余裕が生まれもう一人産みたいという希望を持てるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「子育てと家庭、仕事を無理なく回せて、「もう一人産みたい」という希望を持てるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】	【課題解決への取組】
①自分に合った産院を選べるようにするため、減少傾向にある市内の産科数の維持・向上。	産科を維持できるよう産院への支援。医師、看護師を増やし働きやすい環境を作る。
②他者の手を借りながら希望に沿った子育てをするために保育園を利用しやすくする。	保育園利用申し込みの就業時間（64時間以上）の撤廃。保育料の助成。
③子育てとのバランスを取りながら働くために、短時間・少ない日数で働ける職場が少ない状況を解消する。	子育て世代が多い職場や日数・時間に融通の利く職場の求人情報の提供

備考

- ・こどもと一緒に買い物に行くと、こどもが商品に触ってしまったりカートに乗ってくれないなど、すぐ終わる用事がなかなか終わらないということもあるが、出先で預けることができればゆっくり見て回ることができるので、子育て中の親にとっては負担感が減る。
- ・預かりができる・バス通園ができる園を探せることから、親は無理なく働くことができている
- ・子供に十分目と手間をかけながら、働いて社会とのつながり、収入を維持できる環境をつくる
- ・就労時間の制限なく保育園を利用できる（64時間/月以上の制限をなくす）
 - ・子供に無理をさせない時間での働き口の紹介
 - ・0-2歳の保育園児の保育料の支援

64時間/月→1日4時間週4日。子供の体調不良などで休むと足りなくなってしまう。1日の働く時間を延ばすと子供に負担がいき年齢が幼いほど負担が大きい。夫に頼れず妻がこの働き方を一人するのは職場と妻の負担が大きい。

【提言4】「すべての子育て世帯が過ごしやすい居場所があるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とするまちは、障害や難病の有無に関わらず、未就学児や小学生のこどもやその養育者が安心して過ごせるような居場所がたくさんあるまちです。
- ・土日祝日や夏休みなどの長期休暇のときには、子育て支援センターや体育館に出かけてこどもを遊ばせたり、周囲の目を気にせず語らいたいときには、市民センターの個室を利用して過ごしています。共通の子育ての話をしたときには子育て世帯が集まるイベントに参加したり、養育者が病院に行きたいときは託児ボランティアに頼んだりしています。
- ・このまちは、子育てによる閉塞感や孤独感を感じる事がなく、安心して過ごすことができるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「すべての子育て世帯が身近に感じられる居場所があること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

- ・土日祝日や雨天時、猛暑時に子供と安価で過ごせる室内遊戯施設が水戸市内に少ない

【課題解決への取組】

- ・「はみんぐぱーく・みと」「わんぱーく・みと」などの子育て支援センターを祝日にも開館し、施設内のホール等を使って室内で体を動かせることを園児や小学生にも広く知らせる
- ・子育て世代向けに、小中学校やリリーアリーナMITOなどの体育館を個人が自由に使用できる日時を設ける（特に夏季）
- ・子育て世代が市民センターを気軽に利用できるように、個室などの施設利用に関しての啓発活動や玩具・遊具類の施設内貸出を行う

備考

- ・ひたちなか市の子育て支援センター「ふぁみりこ」は土日のほか祝日も開館しており、乳児だけでなく幼児向けの玩具や遊具を室内外に揃えている
 - ・日立市には0～12歳対象の「Hiタッチらんど・ハレニコ！（日立市屋内型子どもの遊び場）」があり、90分ごとの入れ替え制・子供100円大人200円で有料だが土日祝日も開館しており、水戸市民も多数利用している
 - ・那珂市の県民の森にある「森のカルチャーセンター」「きのこ博士館」の室内には無料で使える幼児向けの室内遊具がある
 - ・笠間市の笠間中央公園には県内初のインクルーシブ遊具が室外に整備されており、水戸市民も多数利用している
- 水戸市と同様に、県立中央病院や県立こころの医療センターなどがある笠間市では「かさま未来さぼーとぶっく」が導入され、保育園や幼稚園、学校などの入園入学や進級時、児童発達支援や放課後デイサービスの利用時、就職時も含めて継続した支援が受けられるように既に制度も整備されている

※以下、一時的に備考欄に移動してあります。

各市民センターでは子育て広場事業が多く行われ、多数のボランティアが各地で参加している。市民センターで行われている子育て支援事業では、市民センターが週に一度開放され、託児ボランティアがこどもを見ていてくれる。

【提言5】「まちごと家族のまち～頼れる人がそばにいる子育て～」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちには困ったときに気軽に頼れる「子育て・地域つなぎコンシェルジュ」がいるので、転入者など地域コミュニティとの関係が薄い子育て世帯や、出産から育児期に近くに親族がいない人でも安心して暮らすことができます。
- ・コンシェルジュにオンラインや対面で相談できたり、コンシェルジュがお節介な関わりをすることで、このまちで子育てしている人は適切な支援やサービスにつながるすることができます。若い世代も結婚や出産の前段階からコンシェルジュと接点を持ち顔なじみになることで、ライフステージが変わっても安心して頼ることができています。
- ・このまちには「相談すれば大丈夫」と思える人がいます。また、お節介を受けた人も、次は自分が誰かの助けになりたいと思うことで、助け合いの気持ちが循環しています。安心感や信頼感が生まれ、まち全体が家族のような関係になっていることが、皆から選ばれる理由になっています。



このまちの魅力の一つは「顔の見えるつながりがあり、子育て世帯が孤立せず安心して暮らせるまち」であり、ここではこれを目指します。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

課題①（コンシェルジュ側）

コンシェルジュが安心して声をかけ、子育て世帯を適切な支援や人につなげられる体制が十分に整っていないこと。

課題②（子育て世帯側）

子育て世帯が、困ったときに相談できる相手や相談先を見つけにくいこと。

【課題解決への取組】

取組①（課題①）

子育て・地域つなぎコンシェルジュ制度を整備し、役割や情報の取扱いを明確化する。

- ・市が仲介し、コンシェルジュの役割・関わり方・対応範囲を明確化する
- ・研修やガイドラインを設け、声かけや情報の取扱いに対する不安を軽減する
- ・個人情報の取扱いについては、本人同意を前提としたルールを整備し、必要に応じて関係機関と情報連携できる体制をつくる

取組②（課題②）

LINE や地域拠点を活用し、相談の「最初の入口」を分かりやすく整備する。

- ・図書館や子育て施設などの地域拠点に、コンシェルジュが常駐または定期的に配置されている状態をつくる。
- ・LINE などを活用し、「まずはここに聞けばよい」というオンライン相談窓口を整備する
- ・制度や支援を“探しに行かなくても届く”環境をつくる

課題③（共通）

助けたい人と助けてほしい人が出会い、関係が継続する仕組みが不足していること。

取組③（課題③）

声かけや見守りなど、お節介な関わりが自然に循環する仕組みをつくる。

- ・コンシェルジュが相談を待つだけでなく、地域の様子に応じて声をかけるなど、見守りや気づきの役割を担う
- ・プレママ教室や赤ちゃんとのふれあい体験などを通じ、早い段階からコンシェルジュと顔見知りになる機会をつくる
- ・お節介を受けた人が「次は支える側」になりやすい循環を意識した関係づくりを行う

備考

本提言は、子育て当事者としての実体験をもとに、「制度や施設」だけでなく、「人と人の関係性」を都市の力として生かすことの重要性を伝えるものである。

【提言6】「生涯活躍し続けられるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私の理想のまちは、子育てがひと段落した世代や仕事をリタイヤした世代でも夢を実現することができるように、専門的な機材や設備を備えた誰でも使える便利な施設があります。また、小学生の緊急下校先施設もあり、こどもの下校時に親がどうしても間に合わないときにこどもが待てる場所になっています。
- ・このまちの人々は、自分の夢を実現するために興味・関心のあることに挑戦し、それによってほかの誰でもない「自分という個人」を表現しています。それによって社会とのつながりを強く感じることができています。
- ・結婚や出産、子育て、年齢等に関係なく、生涯生き生きと活躍することができるまちなので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「誰でも生き生きと活躍できるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

自分の夢を実現するため、調理器具の揃った家庭科室のような部屋、そのまま提供できるテーブル椅子、それぞれの競技ができる多目的ホールには利用者が必要なものを持ち込み、自由に使うことができるようにします。ガラス面の壁もあり、そこを保護するための移動式クッションもあります。施設数を増やすため、現在使われていない空き家や倉庫、テナントの入っていない店舗等をリノベーションし活用します。

【課題解決への取組】

SNS やチラシ（学校や幼稚園だけでなく、市役所や飲食店等にも置かせてもらい、気軽に手に取れるようにする）を利用して、こんな施設があるよ、ということを知ってもらう。登録会のようなものを開催し、登録や利用のハードルを下げる。

（施設のイメージ参考事例）

としま産業振興プラザ URL: <https://www.toshima-plaza.jp/facilities/cookinglab.html>

備考

- ・ローラースケートやミニ四駆は競技により会場が劣化してしまうことを理由に会場の貸し出しを断られる心配が無く、競技大会を行うことができます。
- ・得意なお菓子作りを生かしてカフェをやりたい、1日だけ間借り飲食店をやりたい、ハンドメイドや絵画の個展を合同で開きたい、といった「店舗を持つ前段階として、少しでも挑戦してみたい」といったニーズにこたえることができます。
- ・「緊急下校先施設」には常に大人がいるので、大人が見ているという安全確保が徹底された環境でこどもに待っていてもらうことができる。こどもをいったん預けられる場所があるという安心感がある。
- ・いつからでも夢をかなえられる。
- ・体力面や時間を考慮し、自分に合った働き方ができるまち。
- ・結婚や子育てにフォーカスした移住ではなく、一生を通じて「ちょうどいい田舎」で暮らすメリットになりえる。
- ・移住先を考えたときに、「田舎暮らしはあこがれるけど自分に合うか不安」「仕事があるのか」「子供の進学先は制限されないのか」といった様々な理由があると思いますが、試しに1日だけ働いてみたい、1日だけお店を出してみたいなどお試しできる環境があることで水戸市を選択しやすくなる。
- ・「緊急下校先施設」のスタッフもボランティアではなく「仕事」として働いてもらう。無償のボランティアではなく、見返りや報酬があるといった付加価値があること。

【提言7】「地域コミュニティが相互作用しあうコンパクトな範囲でも暮らしやすい水戸」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とするまちは、それぞれの地域コミュニティが活性化し、他の地域コミュニティとも相互影響し合う、コンパクトな生活ができるまちです。市民センターを核として、住人やコミュニティがつながっています。町内会がない地域コミュニティに住む人でも移住者でも地域の情報を得ることができたり、地域の活動に参加することができたりして、地域とつながることができています。また市民センターは、市民がやってみたいことにチャレンジできる場にもなっています。
- ・このまちは、同じ地域に住む人々と助け支え合いながら、コンパクトな範囲でも楽しみながら暮らすことができ、やりたいことにも挑戦できるまちなので皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「多世代の人や移住者もコンパクトな範囲で住みやすく暮らしやすい街と
感じられる水戸」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおり
です。

【課題】

- ・市民センターを活用している年代にバラツキがあり、多世代が使いやすい場として機能していない可能性がある。

【課題解決への取組】

- ・市民センターを多世代が利用しやすい・利用したいと思うような環境整備や仕掛け作りを行い、自然と多世代が利用しやすい場となるように改善していく。

備考

- ・核家族化の進行、ライフスタイルの変化等により、町内会・自治会の加入率が大きく低下しており、役員の手不足や地域活動への参加者の減少がある。
- ・2025年4月から「水戸市町内会・自治会の活動の活性化に関する条例」が施行している。

住民同士の交流促進、地域のお祭りや運動会など、清掃活動・資源物回収、地域の清掃活動・ごみ減量リサイクル など、防災訓練の実施、自主防災組織による防災訓練、緑化推進（公園愛護会）、花壇づくりなど、こどもや高齢者の見守り、こどもや高齢者への声かけなど、防犯灯の維持管理、町内の防犯灯の設置・維持管理、回覧板、「広報みと」の配布、地区や町内のお知らせの回覧や「広報みと」の配布など、行政への連絡・調整、地域の意見・要望の取りまとめなどが町内会単位で行われている場所が多い。

【市民センターでの活動】

- 地域コミュニティ活動の支援：：地域住民の活動を支援し、交流の場を提供している。
- 生涯学習講座の開催：：市民向けの様々な生涯学習講座を開講
 - 例：フラワーアレンジメント、写真、囲碁・将棋、歌・コーラス、料理、手芸、茶道、外国語会話、ダンス、体操、パソコンなど。
- サークル団体の活動拠点：：サークル団体が活動するための部屋を利用。
- 窓口業務：：各種証明書の発行したものを受け取る。
- 子育て広場の開設：：子育て中の親子の交流と遊びの場の活用。
- 防災拠点機能：：災害時には避難所としての役割を担う。

【提言8】「どんな人でも動物や植物を身近に感じられる環境、動物も人間も過ごしやすい街「アニマルタウン」」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちでは、日常的に動植物を見たり触れ合ったりできるように、屋内型ふれあいパークやドッグランなどの環境が充実しています。さらに、動物病院と犬猫の保護活動をしているボランティア団体が連携して保護すべき犬や猫を見つけた時に救える環境が整っています。
- ・このまちの人々は、動物に直接触れたりすることで、不安やストレスを減らし、気持ちをリフレッシュしています。一方で、捨て犬や捨て猫を見つけたときには見て見ぬふりすることなく保護して動物病院に連れて行きます。
- ・このまちには、生き物への愛着だけでなく動物愛護の気持ちもあふれています。人間と動植物が共存しやすいことが魅力となっているので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「市民一人一人が動植物に親しみを持ち、対人間では考えることがなかった考えや気持ちを学べること」「人間社会で日々を必死に生きている市民が少しでも疲れを忘れてリフレッシュできること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

・動物ふれあいパークを作るため、市民の機運を高める。

※まず動物の魅力などを伝え、動物とふれあうことでリフレッシュが叶うということを認識してもらい、ゆくゆくはふれあいパークの意義を確立し、開催に持っていく。

【課題解決への取組】

動物の人気を高めるイベントを開催する。

※動物ふれあい施設・パークを常設ではなく、期間限定開催でイベントとして市民を呼び込む。

遠くから見るだけでなく、非日常的な体験(普段は動物園の飼育員しかできないお世話体験や鷹を腕に乗せたり、蛇を首に巻いたりなど動物との距離を近く感じることで来る体験)ができる催し物を用意する。

(イベントの目玉)⇒非日常的体験が思い出として昇華された際に、強く印象に残ると思う。(体験中の様子を写真を撮り、販売するなど物として残るためさらに◎)

動物と触れ合うことが楽しい思い出として記憶されると、市民がまた行きたいとなり、期間限定から定期開催から常設にすることができる。

備考

茨城県には複数の植物園や動物園などがあるが、多くが市外であり、これらの交流施設は手薄状態にある。水戸市の偕楽園は、隣接する千波湖には季節の植物や水辺もある。梅まつりや花火大会などの季節のイベントはもちろん、散歩や軽い運動のスポットとしても日常的に利用している人がいる一方、世代に偏りがあるようにも見える。(※提案①)

動物との触れ合いにより、こどもによい効果があることは様々な分野で研究されており、動物との接触によってストレスが低下し、心の安定が得られることや動物飼育が幼児の情緒発達に良好な影響を及ぼすことなどが報告されている。

動物との交流は認知症予防に効果的とも言われており、高齢化が進む現代で、可能な限り心身の健康を維持していくための手段としても活躍できると考える。

【提言9】「若者からの魅力度NO1のまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、歴史や文化などの古いものも大切にしつつ、若者が収入を得ながら住むことができるように、経済・住宅環境が整っているまちです。
- ・このまちには、借楽園や好文亭、駅北の商店街の町並みなど歴史や文化を感じられる場所がありつつも、昔ながらのお店は若者が好むような現代的なおしゃれさも持ち合わせています。このようなまちに若者は興味を持ち、ここで働きながら生活しています。
- ・若者が多く集まり、まちで活躍していることで、まち全体に活気が溢れています。このまちに人々は魅力を感じるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「若者が心も経済的にも豊かに暮らせるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

- ・空き家問題→高齢化により空き家になった家をどうするか
- ・飲食店の引継ぎ問題→後継のいない歴史ある飲食店を若者が引き継ぐためには

【課題解決への取組】

- ①・リノベーションする人または企業の募集
 - ・携わった若者は格安で住める取組
- ②・家賃補助をしながら働ける仕組み
 - ・引き継いだ後の税金補助、家賃補助など



備考

【提言 10】「場所・人・お金が循環する水戸」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・私が理想とする水戸市は、「歩いて移動しやすく、自然に人が集まる」イベントを開催しやすいまちです。このまちには偕楽園駅から歩いて移動できる距離に千波湖や千波公園、偕楽園といった、人々が集まりやすい場所があることで、人々は自由な発想でさまざまなイベントを開催しています。また、都内から電車1本で来ることもできるので、車を持たない都内近郊の若者や高齢者も、電車を利用して来訪しています。
- ・多くの人々が偕楽園や千波湖を訪れ、楽しみ、まちが賑わうことで、地域経済の活性化にもなっています。また、まちの経済が豊かになることで、人々は自分のやりたいことに投資できたり、自己実現をすることができているまちであるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「市民がやりたいことに挑戦してわくわくできるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

・集客しやすい環境をつくるために、利用申請の工程を簡単に（少なく）する

【課題解決への取組】

イベントで千波湖や千波公園を利用したいときに、ネットから申請が一回で済むフォーマットを作る

備考

【提言 11】「市民一人ひとりが推すまちづくり」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、まちなかでも緑が豊かで暮らしやすいこと、大手門や二の丸の白壁などの歴史の深さを感じる景観やイベントがあること、商業施設や文化施設が集積した生き生きとした市街地があることなど、さまざまな魅力を兼ね備えています。
- ・このまちの人々は、このような水戸の良さや水戸らしさを自覚しながら楽しんで暮らしています。そして、水戸の推しポイントを明確に相手に伝えることができるので、市外の人にも水戸での暮らしの良さが伝わり、水戸への移住を検討するときの安心につながっています。
- ・市民にとっては「水戸が好きだから水戸に住む」という感覚が自然なものになっており、市外の人には、そこに住んでいる人が楽しんで暮らしているから水戸で暮らしたいと思うようになるので、皆から選ばれています。

このまちの魅力の一つは「水戸での暮らしを満喫して楽しんでいる市民がいてそれを見た人がいいなと思えるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

・水戸の魅力を一人ひとりが認識し、周囲に推せる状況を作ること。
魅力は人それぞれで固定的な正解があるものではない。重要なのはその人が魅力的だと思ひ、それを他者に推せる状況になっていること。定量的な評価や他都市との比較は数値的な説得力はあるが、実感や熱量が伴わない。少なくとも市職員は自信を持って水戸を推すべきで、自分はここが好きだと自信を持って言ってもらいたい。そうすることで、その人自身がまちの魅力となる。

【課題解決への取組】

水戸市の個性を演出し、水戸市らしい体験ができるあるいは日常が過ごせる機会を作っていくことが必要です。
都市のイメージは歴史的経緯や事実がどうであれ、その都市に関わる人がどう認識するかにかかっています。そして認識が経済活動に結びついていく。歪曲しないように気を付けなければならない部分ですが、事実として本物であることよりも、認識として本物らしくあることが価値を生む状況にあることに留意すべきです。
例えば今の中心市街地は緑がかなり不足しているように見えますが、水戸のイメージとして千波湖や偕楽園のような大規模な自然環境が挙げられるため、そういった要素を中心市街地でも感じられるよう、都市の緑化を推進し、都市イメージの強調と地球温暖化対策・環境問題への適応を同時並行することが考えられます。水戸藩の歴史を踏まえて歴史的景観づくりをしている三の丸エリアであれば、文教地区というハードルがあるとは思いますが、二の丸の白壁通りをもっと活用していくべきです。現状では部隊の背景はできたが演者が不在な状況で、イベント会場としての利用を促すなど景観づくりを進めるべきです。

備考

【提言 12】「多様な仕事が充実し、達成感をえられるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、若者や子育て世帯が自分のライフスタイルに合った仕事や働き方ができるように、様々な職種や福利厚生が充実しているなど、働きやすい環境が整備されています。市内外からも水戸市に働きに来やすいように、公共インフラが整備され、合同企業説明会も行われています。
- ・このまちの人々は仕事とプライベートを両立してバランス良く暮らしています。若者が働くときには、フレックスタイム制や時差出勤、テレワークなどの制度を活用して、個々のライフスタイル等に合わせて働く時間や場所を自ら選択できるような、「柔軟な働き方」をしている。
- ・このまちでは、やりたい仕事に就き達成感ややりがいを得ながら、プライベートも充実して豊かに楽しく暮らせるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「水戸市に住む若者が仕事もプライベートも楽しめること」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

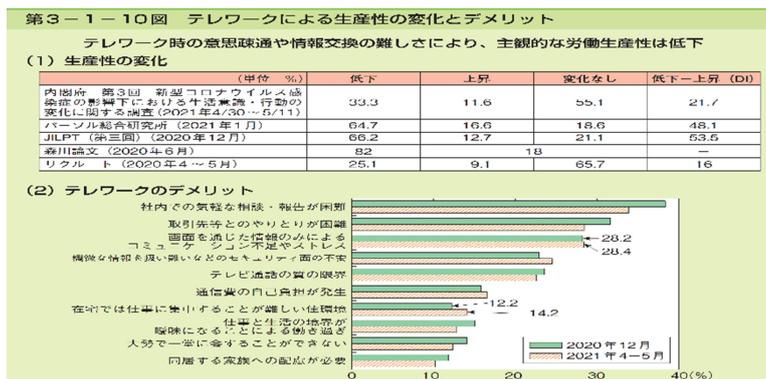
【課題】

- ・若者が柔軟な働き方をできるようにするため、フレックスタイム制を導入している会社を増やす

【課題解決への取組】

- ・フレックスタイム制の導入にかかる費用を助成する
- ・水戸市独自の、若者が働きやすい企業の認定制度をつくり、その要件の一つにフレックスタイム制の導入を含める

備考



上図のように、テレワークについては、意思疎通や情報交換の難しさにより、主観的な労働生産性が低下するとした調査があることから、本提言ではテレワークではなくフレックスタイム制の推奨を課題とする。

令和3年度経済財政白書(3章): https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je21/pdf/all_03.pdf

【提言 13】「若者が住み続けたいと思えるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、水戸で大学進学や就職を考えている人が暮らしやすいように、進学先や・就業先が豊富にあり、その情報を集約したポータルサイトがあります。生活面では、歩行者が安全に歩けるように環境が整備されています。
- ・このまちの若者は、自分の求めている働き方を確立し、自分やってきたことや大学で取得した資格を生かせる会社に就職し、地域で活躍しています。休みの日にはイベントで自らのアイデアや商品を提供することで自己肯定感を向上させ、主体的に生活を送るモチベーションを保っています。
- ・このまちでは、若者が進学すること、働くこと、社会に出て行くことへの不安がなく、将来に希望を持って暮らしています。このまちなら、自分らしくより自由で幸福な人生を送れると思えるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「単身や家庭を持ちたい人がその人らしい生き方ができるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



【課題】	【課題解決への取組】
時間を気にせず活動できるようにするため、街灯の整備や水戸駅周辺の治安改善を行う	水戸駅周辺でパトロールをする人へ補助金を交付する。
	防犯灯補助金についての周知を行う。
学びたい人々が曜日や時間を問わず多様な場所で学べるようにするために、自習スペースの整備を行う	学生応援スペースの運営を行う団体への補助金を交付する。
	市民会館のような、市の施設を利用した自習スペースを整備する。
中心市街地でのイベント開催を市民がスムーズに行うために、総括されたガイドラインを作り、一括の対応窓口を設置する	イベント運営マニュアルの作成や対応窓口を統一する。

フリーマーケットや成果発表
の場で発信者としての自分を
表現するために、発表の場に参加しやすくなるような支援を行う

イベントを主催する団体に補助金を交付する。

イベント運営のモデル例を公開する。

イベント運営マニュアルの作成や対応窓口を統一する。

備考

参考：仙台市就職・転職お役立ちポータルサイト <https://sendaidehatarakitai.jp/>

【提言 14】「誰もが主役になれるまち」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、若者から高齢者までどの世代も好きなことを楽しめる環境が整っています。借楽園や千波湖では季節ごとのライトアップや映画の野外上映が行われています。夜間も安全に歩いたりランニングができるように街灯も整備されています。また、市民がイベントに出店しやすいように備品の貸し出しや出店者向けの講演会などもあります。
- ・多彩なイベントに市民は客としてだけでなく運営側としても参加しています。イベントを通して多世代の人々が自然に交流し、移住者もまちの人たちと交流するきっかけになっています。
- ・このまちでは高齢者は生き生きと暮らし、若者は地域への愛着が生まれることで水戸に住み続けよう思うようになっています。誰もが水戸に郷土愛を持ち、ここで暮らし活躍したいと思うので皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「誰でも地域に愛着を持てるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

- ・自分の好きなイベントに参画できるように、出店準備の負担軽減を図る

【課題解決への取組】

出店のハードルが高い
商品の選定とメンテナンス、価格設定、釣銭などの必要な持ち物、集客の仕方、トラブルの対処方法など、初めて出店するまでに様々な準備が必要となる。

<https://fmfm.jp/regular/detail/471#:~:text=%E5%80%A4%E6%AE%B5%E3%81%AF%E4%BA%8>

[B%E5%89%8D%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%91%E3%81%A6,%E3%81%AE%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%8A%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%82%E4%B8%87%E7%AB%AF%E3%81%AB%EF%BC%81](https://fmfm.jp/regular/detail/471#:~:text=%E5%89%8D%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%91%E3%81%A6,%E3%81%AE%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%8A%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%82%E4%B8%87%E7%AB%AF%E3%81%AB%EF%BC%81)

1

備考

【提言 15】「若者が定着しやすく活気がある街」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちは、人と人の交流が盛んで人とまちがつながっていると感じられるまちです。四季折々の自然豊かな偕楽園や千波湖、千波公園、カフェや飲食店が集まる大工町や南町など人々が集まるところが市内にたくさんあります。また大学生や若者が就職したり起業しやすいように企業説明会や起業支援の場もあります。
- ・水戸に集まってきた人々は、イベントに参加しながら交流を楽しんでいます。またこうしたイベントを支えるボランティア活動も盛んに行われ、若者と多世代の交流も生まれています。このまちの若者は地元で就職したり、水戸で起業しています。
- ・このまちは、コミュニケーションによってお互いの価値観や考え方を共有でき、多様性や活気生まれているまちです。若者も日々楽しく暮らすことができ、若者を始めとした市民が生き生きとしていることが魅力となり、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「学生から 20 代 30 代の人々が楽しくて活気のあるまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。

【課題】

- ・イベントや公共施設を気軽に利用できる環境を整備する。

【課題解決への取組】

- 公共施設の使いやすさの向上
 - ・スマホで完結する予約システム。
 - ・空き家や空きスペースを市民の活動スペースに改装。
- 市民と一緒に企画する協創型のイベント
 - ・市民のアイデアなどを取り入れて、市が提供。
 - ・学生団体や地域サークルとの共同。

備考

【提言 16】「若者が住み続ける、帰ってくる水戸市」

【この提言が理想とするまちの姿（要旨）】

- ・このまちには、若者（大学生）が住み続けたい、戻ってきたいような環境が整っています。市内及び県内にはさまざまな業界、業種、職種の就職先があり、地元企業に絞った企業説明会なども行われています。生活する中で必要不可欠なスーパーや都市銀行や地方銀行の支店、郵便局などが自宅や大学から近いところにあり、余暇の時間を過ごせる偕楽園や護国神社、歴史館などもあります。
- ・若者はこうした環境があることによって、水戸で快適に暮らすことができ、大学卒業後も働きながらこのまちで暮らしています。休みの日には水戸ならではのイベントや場所に出かけ、水戸での楽しい思い出を作っています。
- ・このまちの若者にとって、水戸は住みやすく、働く場所があり、友人や家族とも距離的に近いところにつながれているので、安心して暮らせる場所になっている。これらのことから、水戸に住みたいと思う人が増えるので、皆から選ばれています。



このまちの魅力の一つは「県外から転入してきた若者が水戸市に愛着を持ち住み続けなくなるまち、戻ってきたいまち」であり、ここではこれを目標とします。この目標達成への課題は次のとおりです。



【課題】

・イベントの情報が得られるように、イベントの情報を発信する

水戸市ならではの面白さや水戸市でしか体験できないイベントなどの情報に触れる機会が少ない。

【課題解決への取組】

若者がよく立ち寄る駅構内・郵便局・銀行に市内で行われている季節のイベントのポスターを貼る



備考

梅まつり等の水戸ならではの様々なイベントを体験できる